



東北大学

災害科学国際研究所
IRIDeS

わたりちょう
亘理町

株式会社サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

2022年3月16日 福島県沖地震 津波避難行動に関するアンケート

調査結果報告書

2022年11月

東北大学 災害科学国際研究所
亘理町 総務課 安全推進班
株式会社サーベイリサーチセンター

調査結果報告書

目 次

I. 調査概要	02	15. 町指定の避難場所以外に避難した理由	22
II. 回答者のプロフィール	04	16. 避難手段	23
III. 調査結果の総括	06	17. 車で避難した理由	24
IV. 調査結果の分析	08	18. 要配慮者の有無別にみる避難手段	25
1. 令和4年3月16日福島県沖地震発生時の状態	08	19. 車で避難時に渋滞に遭遇したか	26
2. 地震の最中のとっさの行動	09	20. 事前に計画・訓練していた避難ルート数	27
3. 「津波注意報」の認知と手段	10	21. 車避難における避難開始時刻と渋滞・避難所要時間	28
4. 津波注意報発表時の危機感	11	22. 避難終了時刻	29
5. 「避難指示」の認知と手段	12	23. 避難終了のきっかけ	30
6. 予報・避難指示等の認知と津波危険性の予測	13	24. 避難終了のきっかけとなる情報の認知	31
7. 避難の有無	14	25. 総合防災訓練の参加経験・頻度	32
8. 避難しなかった理由	15	26. 総合防災訓練での経験の活用	33
9. 避難する判断基準	16	27. 総合防災訓練と同様の避難行動ができたか	35
10. 避難開始時刻	17	28. 東日本大震災での経験の活用	36
11. 避難完了時刻	18	29. 日ごろの備え	38
12. 避難時の持ち出し品	19	V. 調査結果の考察	40
13. 避難先	20	VI. 調査票（見本）	41
14. 町指定の避難場所で建物に入ったか	21		

I. 調査概要

1. 調査の目的

令和4年3月16日に発生した福島県沖地震では、宮城県沿岸部に津波注意報が発表され、亘理町では避難指示を発令するに至った。東北大学災害科学国際研究所・亘理町・株式会社サーベイリサーチセンターの3者は、この地震及び津波に対する避難行動の状況を把握するために、共同調査研究を実施した。

調査結果は、亘理町の施策検討に活用すると共に、広く防災研究や報道、広報・啓発などの活動で利用する。

2. 調査対象と調査方法

■調査対象：亘理町荒浜地区・吉田東部地区かつ平成23年3月11日に発生した津波の浸水域に、現在居住する1,000世帯（世帯向け調査）

■調査方法：調査対象地域にて、無作為抽出された1,000世帯に対して調査票を郵送配布・回収

3. 回収状況

①標本数	②有効回収数	③有効回収率
1,000件	497件	49.7%

(回収状況の地区別分布)

地区名	地区世帯数*	有効回収世帯数
荒浜地区	784世帯 (36.4%)	170世帯 (34.2%)
吉田東部地区	1,367世帯 (63.6%)	327世帯 (65.8%)
計	2,151世帯 (100.0%)	497世帯 (100.0%)

*印：地区世帯数は、令和4年5月31日（火）時点の住民基本台帳データによる東日本大震災の津波1m以上浸水地域の世帯数である

4. 調査実施期間

令和4年8月31日（水）～9月16日（金）

※集計にあたっては、10月3日（月）到着分までの票を含めた

5. この報告書の見方

- (1) 本文中の「n」や「調査数」は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、単一選択式の質問においても、回答比率を合計した値が100.0%にならないことがある。
- (3) 回答者が2つ以上の回答をすることができる複数選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として回答構成比を算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える（グラフでは「M.A.」と表記）。
- (4) 本文中で複数項目の合算比率を掲載している場合は、個別項目の回答数を合算し、改めて回答比率を算出し直しているため、個別項目の比率の単純な足し上げ値と一致しない場合がある。
- (5) 選択肢の語句を一部簡略化してあらわしていることがある。

I. 調査概要

4. 本調査の分析対象となる地震の概況

本報告書では、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震の避難行動等の分析を行うにあたり、平成23年3月11日の東日本大震災及び平成28年11月22日の福島県沖地震・令和3年3月20日宮城県沖地震発生時の避難行動等との比較・分析を行うことから、以下に各地震の概況を整理した。なお、各地震の名称の差別化を図るため本文中で言及する際は下表< >内の表記としている。

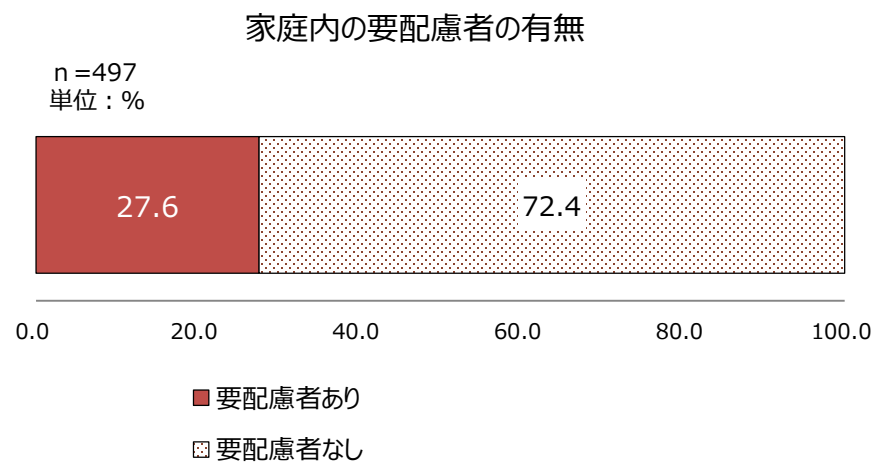
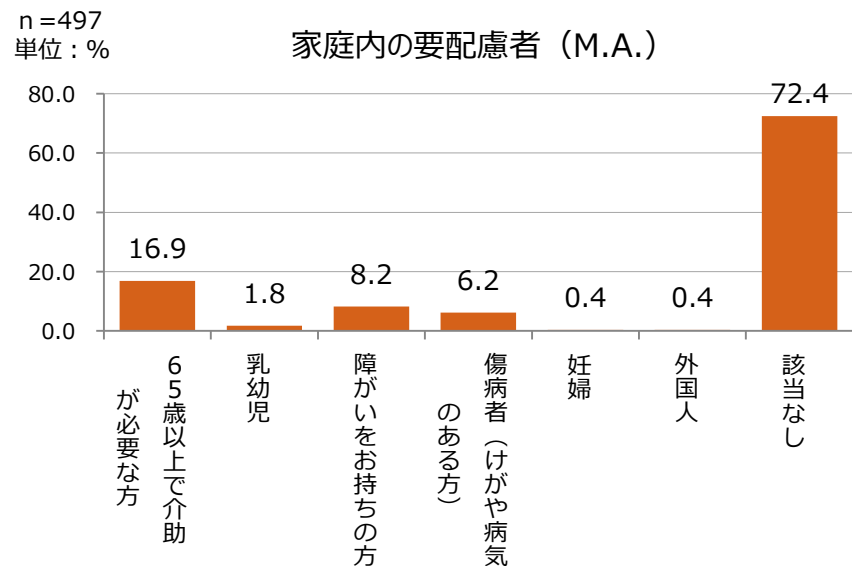
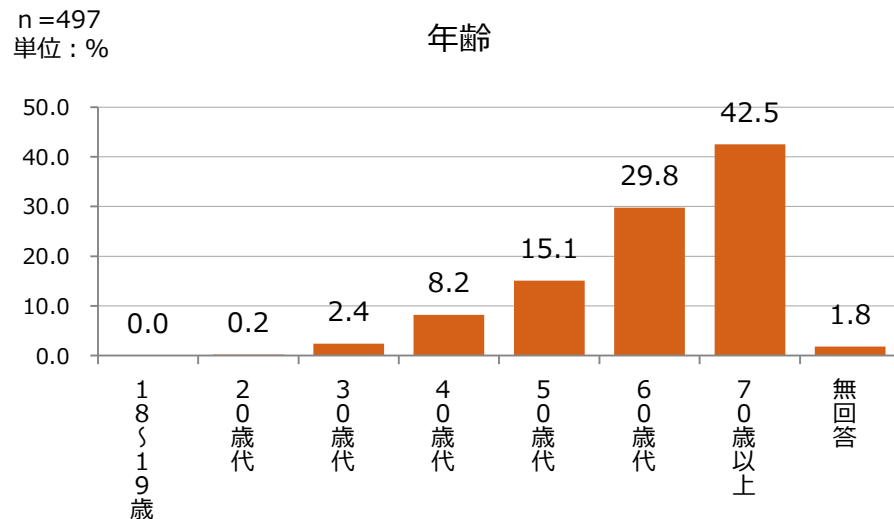
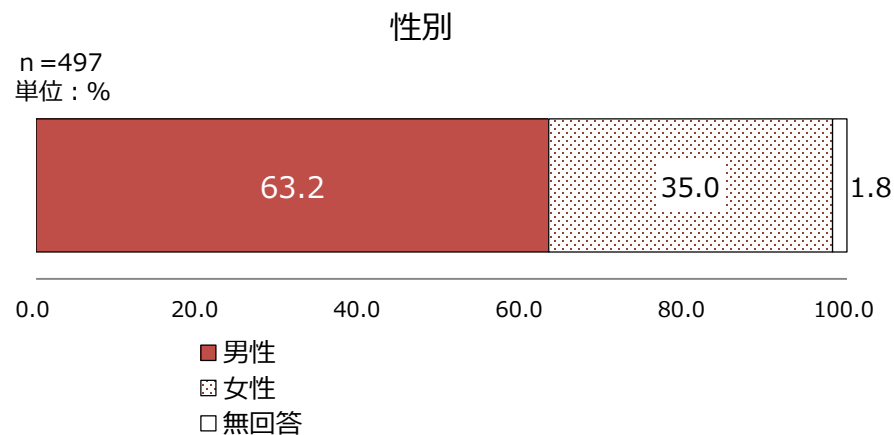
		東日本大震災（平成23年） ＜東日本大震災＞	福島県沖地震（平成28年） ＜2016年地震＞	宮城県沖地震（令和3年） ＜2021年地震＞	福島県沖地震（令和4年） ＜2022年地震＞
発生時刻		平成23年3月11日（金） 14時46分	平成28年11月22日（火） 5時59分	令和3年3月20日（土） 18時9分	令和4年3月16日（水） 23時36分 ※1
地震規模		マグニチュード（暫定）：9.0 最大震度：7 巨理町震度：6弱	マグニチュード（暫定）：7.4 最大震度：5弱 巨理町震度：4	マグニチュード（暫定）：6.9 最大震度：5強 巨理町震度：5弱	マグニチュード（暫定）：7.4 最大震度：6強 巨理町震度：6弱
予報・警報等の発令	津波注意報	－	6時2分	18時11分	23時39分
	避難指示／ 避難指示 （緊急）	15時15分	6時50分	18時32分	23時39分
	津波警報	14時49分(6m) 15時14分(10m以上)	8時9分	－ (発令なし)	－ (発令なし)
津波の観測状況	到達予測時刻	－	宮城沖 6時20分	－	仙台港 翌0時20分
	最大波到達時刻	相馬港 15時51分 (9.3m以上)	仙台港 8時3分 (1.4m)	※19時30分に 津波注意報解除	石巻港 翌2時14分 (31cm) ※2

※1 発災の2分前（23：34）にも最大震度5弱（巨理町震度4）の地震が発生

※2 翌17日（木）の5時00分に津波注意報解除

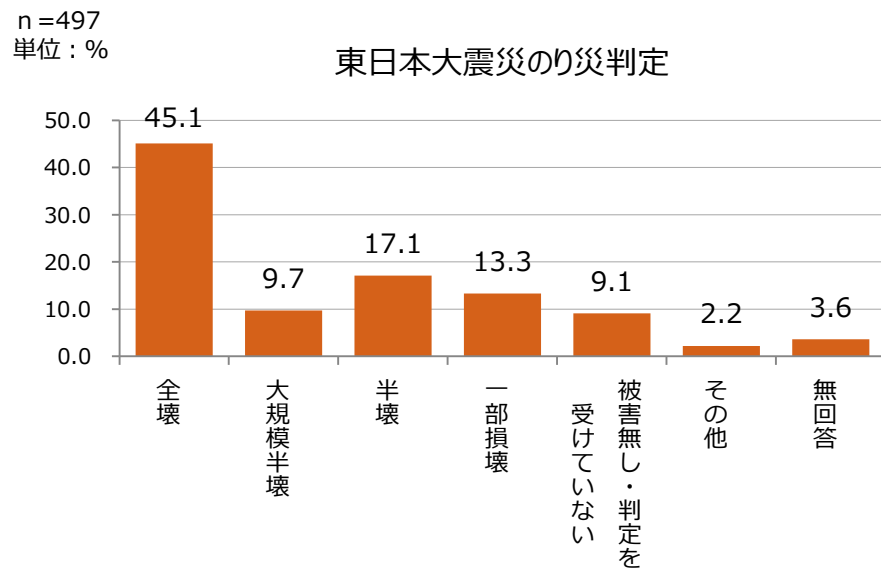
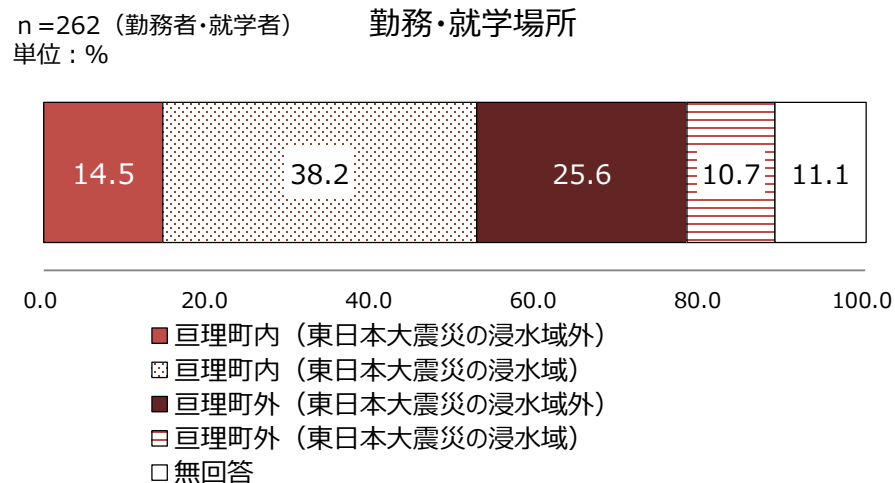
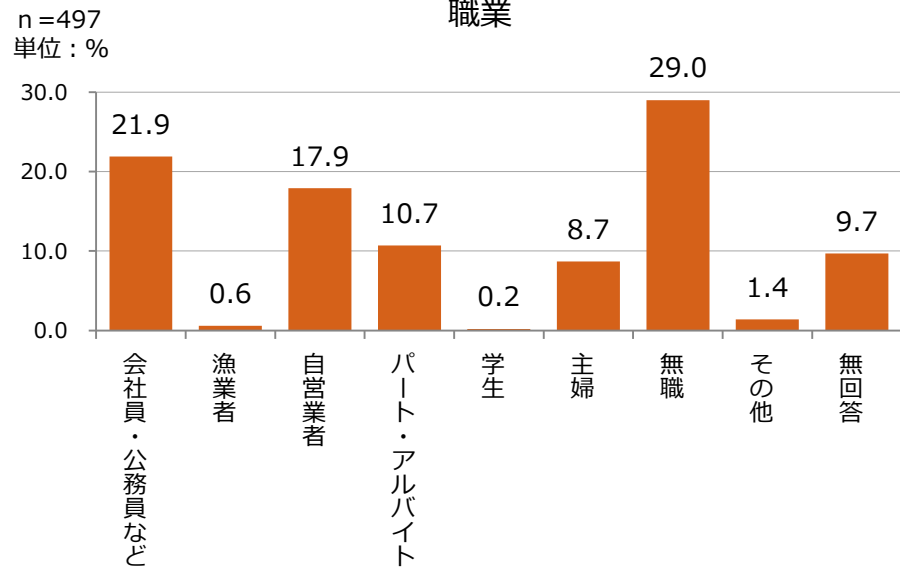
Ⅱ. 回答者のプロフィール

- 本調査は、「平成23年3月11日に発生した津波浸水域に居住する世帯」を対象とした世帯調査であり、対象者の指定は行っていないものの世帯主またはそれに代わる方が回答を行っている場合が多いことから、回答者の年代は70歳以上が最も多く、60代以上が7割以上を占める。
- 男女比では女性が35.0%、災害時の要配慮者がいる世帯が3割弱という結果になっている。



Ⅱ. 回答者のプロフィール

- 本調査が世帯向けの調査である特性から、職業は無職（29.0%）、会社員・公務員など（21.9%）が多い。
- 勤務や就学の場所は、約5割が町内で、そのうちの約7割が町内の浸水域となっている。
- 東日本大震災当時の「り災判定」は、全壊（45.1%）、大規模半壊（9.7%）が合わせて過半数を占める。



Ⅲ. 調査結果の総括

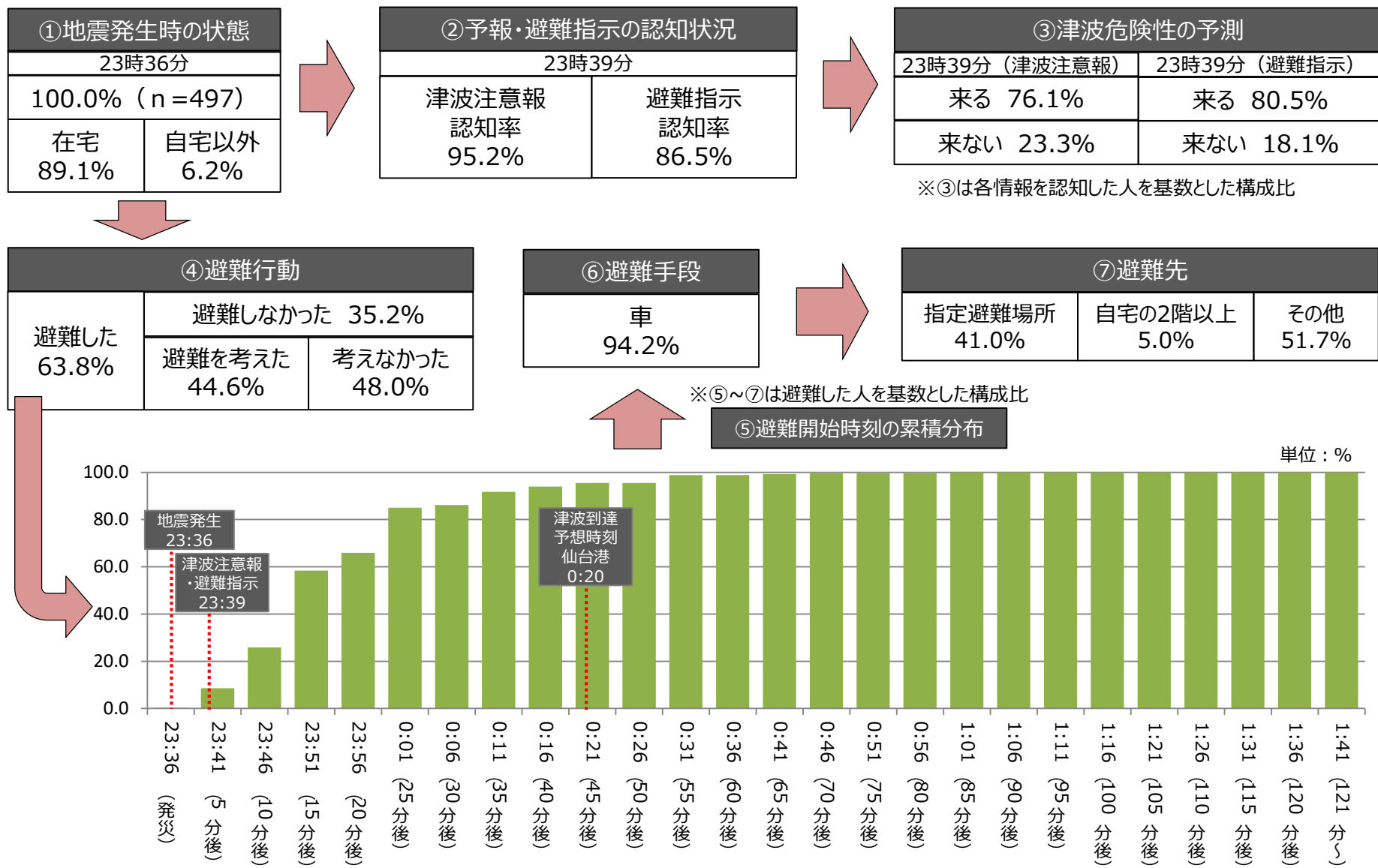
1. 調査結果のポイント

- (1) 令和4年3月16日の福島県沖地震発生時（23時36分頃）は、在宅率が9割弱で、在宅者の約7割が就寝中【P8】
- (2) 「津波注意報」、「避難指示」（ともに23時39分）の認知状況は87%～95%と高い水準である一方、津波注意報の発表により危機感を持った人は6割程度【P10～P12】
- (3) 関連情報の収集源は、メディアは「テレビ」、行政情報は「防災行政無線」「巨理町ほっとメール便」が多い【P10,P12】
- (4) 東日本大震災と同等の震度となった今回の地震では、発災が深夜にも関わらず6割以上が避難を実施。前年の2021年地震から避難実施率は10ポイント以上上昇。避難した人のうち避難基準を事前に決めていた人は、東日本大震災時の約2倍【P14,16】
- (5) 避難をしなかった人のうち、避難することを「考えた」人は約4割。【P14】
- (6) 避難した人の避難開始時刻が発災後30分以内に集中しており、避難指示が発災直後に発令されたこともあり15分後には約6割、発災から約35分後には9割以上が避難行動を行っている【P17】
- (7) 地震発生から、避難開始までの「経過時間」は平均18.8分。2021年地震（23.2分）から短縮され、さらに早期避難がなされている。避難開始から避難完了までの「避難所要時間」は平均26.4分、避難場所での避難を終了した時間は翌17日の1～2時台が中心となり、約7割が津波注意報および避難指示の解除前（翌17日5:00以前）に避難を終了している【P17,P18,P29】
- (8) 避難先は「町指定の避難場所」（41%）、「自宅以外の自分・家族・地域で決めた避難先」（23%）など、6割以上が自宅以外の避難先に移動している。特に「自宅以外の自分・家族・地域で決めた避難先」への避難は、東日本大震災以降上昇している【P20】
- (9) 町指定の避難場所に避難した人のうち45%が新型コロナウイルス感染症の影響を懸念し、建物内に入らなかったと回答しており、町指定の避難場所以外に避難した理由についても、5割弱が感染拡大への不安を挙げるなど、避難行動に大きな影響を及ぼしている【P21,P22】
- (10) 避難手段は「車」が94%で、車避難の割合は東日本大震災時（80%）よりもさらに上昇。車避難の主な理由は、「安全な場所が遠い」、「普段から車避難を想定して訓練しているから」が6割以上と多い【P23,P24】
- (11) 車避難の際に、渋滞に遭遇したとの回答は28%。2021年地震（15%）に比べ渋滞遭遇率は上昇しており、東日本大震災（32%）とほぼ同水準に。特に吉田東部地区で渋滞遭遇率が高い。車避難をした人の6割弱が複数のルートでの避難を想定（計画・訓練）していたが、避難者全体の避難所要時間は平均26.4分と2021年地震（19.0分）に比べ長くなっている【P18,P26～P28】
- (12) 避難した人の「持ち出し品」では、「携帯電話・スマートフォン」（86%）だけでなく、「現金」（78%）、「預金通帳・財布等の貴重品」（68%）、「保険証」（67%）など。東日本大震災の経験を経て、日ごろから非常持ち出し品の準備がされており、全体的に避難時の携行の割合が上昇していることがうかがえる【P19, P37】
- (13) 日ごろの備えについては、「食料・飲料などの備蓄」（53%）、「避難場所や連絡手段などを決めたり話し合っている」（52%）、「非常持ち出し袋を用意している」（45%）などが多かった。回答の選択数は平均3.1と複数の備えを行っている世帯が多いことがわかる【P38,P39】
- (14) 回答世帯の総合防災訓練の参加経験は約5割が「ある」と回答。参加経験がある世帯では、今回の避難行動に、訓練経験が「活かされた」（31%）「活かされた点・活かされなかった点どちらもあった」（22%）を合わせて53%が「活かされた点があった」と回答している【P32,P33】
- (15) 東日本大震災での経験が「活かされた」との割合は38%。東日本大震災から年月が経つにつれ、「活かされた」と考える人の割合は下降している【P36】

Ⅲ. 調査結果の総括

※注記がない箇所は、全体（n=497）を基数とした構成比。無回答は表記を省いている。

2. 主要調査項目の関係



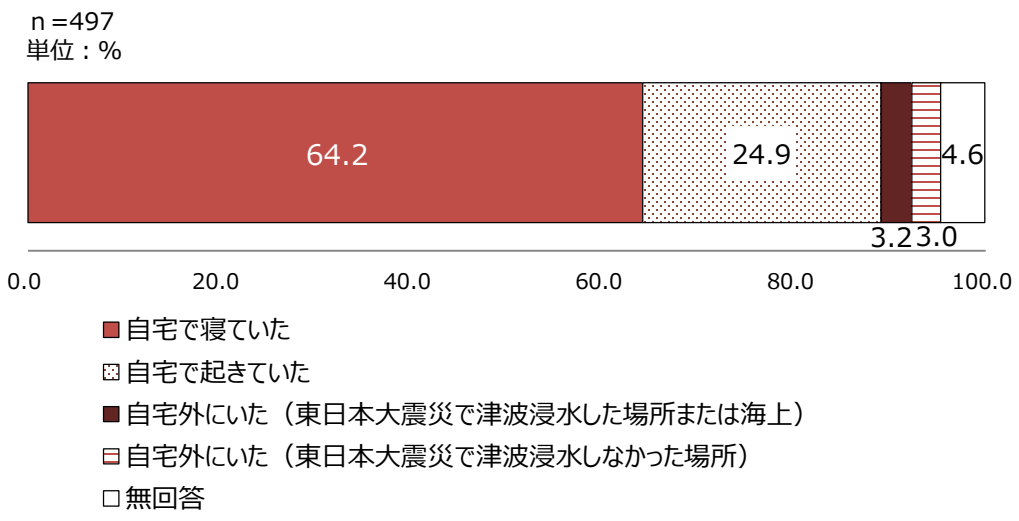
IV. 調査結果の分析

1. 令和4年3月16日福島県沖地震発生時の状態

※地震発生：23時36分頃発生

- 令和4年3月16日23時36分頃の福島県沖を震源とする地震発生時には、全体の約9割が在宅しており、在宅者のうち7割ほどは就寝していた。
- 居住地区別にみても、荒浜地区、吉田東部地区ともに概ね同様の傾向がみられる。

3月16日の福島県沖地震発生時の状態



<居住地区別>

単位：件,%

居住地区	調査数	自宅で寝ていた	自宅で起きていた	場所震または海上（東日本大震災で津波浸水した場所）	自宅外にいた（東日本大震災で津波浸水しなかった場所）	無回答
荒浜地区	170	109	42	6	4	9
	100.0	64.1	24.7	3.5	2.4	5.3
吉田東部地区	327	210	82	10	11	14
	100.0	64.2	25.1	3.1	3.4	4.3

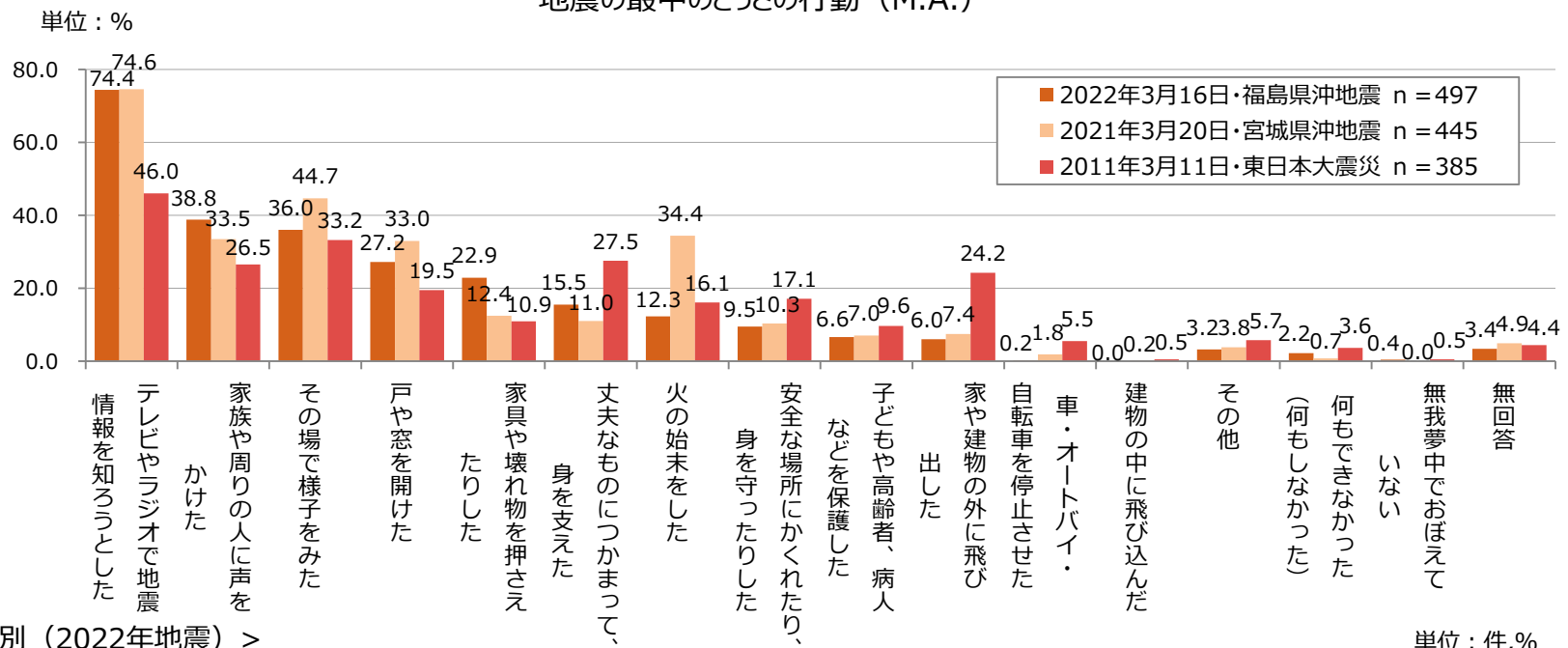
IV. 調査結果の分析

2. 地震の最中のとっさの行動

■ 地震の最中のとっさの行動として、「テレビやラジオで地震情報を知ろうとした」(74.4%)が多く、以下「家族や周りの人に声をかけた」(38.8%)、「その場で様子をみた」(36.0%)、「戸や窓を開けた」(27.2%)が約3~4割と続いている。

■ 過去の地震と比較すると、2022年地震および2021年地震では「テレビやラジオで地震情報を知ろうとした」が東日本大震災から約30ポイント以上と大幅に上昇している一方で、「丈夫なものにつかまって、身を支えた」「家や建物の外に飛び出した」は下降している。また、2022年地震では「家具や壊れ物を押さえたりした」が過去の地震に比べ10ポイント程度上昇している。

地震の最中のとっさの行動 (M.A.)



<居住地区別 (2022年地震)>

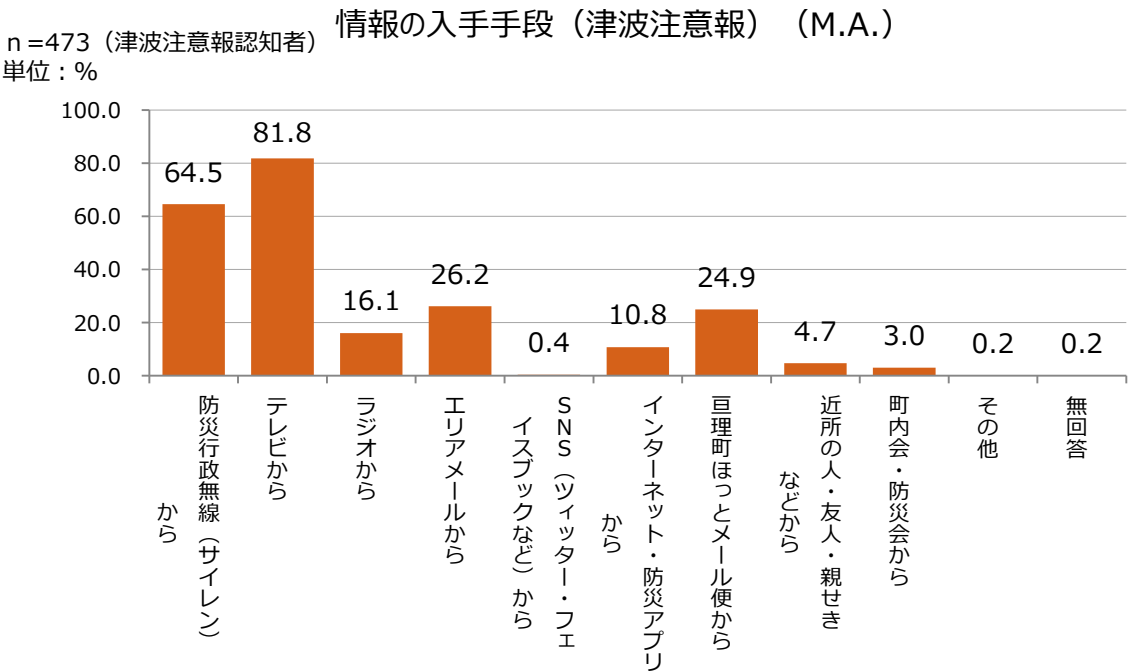
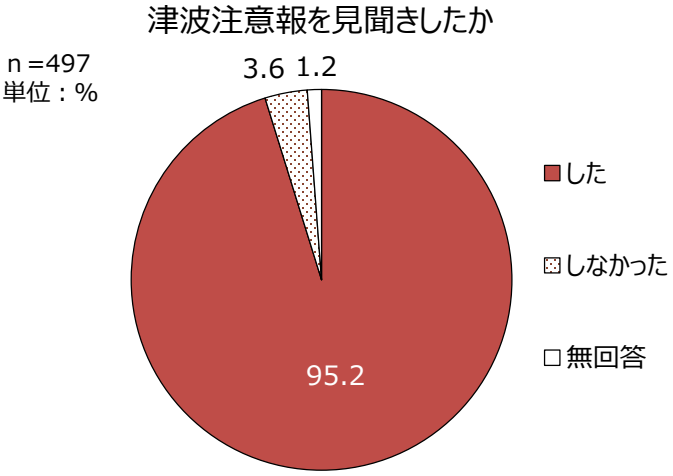
居住地区	単位: 件, %																		
	情報を知ろうとした	テレビやラジオで地震 かけた	家族や周りの人に声を かけた	その場で様子をみた	戸や窓を開けた	家具や壊れ物を押さえ たりした	身を支えた	丈夫なものにつかまって、 身を支えた	火の始末をした	安全な場所にかくれたり、 身を守ったりした	子どもや高齢者、病人 などを保護した	家や建物の外に飛び 出した	自転車やバイクを 停止させた	車・オートバイ・ バイク	建物の中に飛び込んだ	その他	(何もしなかった)	何もできなかった	無我夢中でおぼえて いない
荒浜地区	170	128	62	68	38	39	21	23	18	12	7	-	-	4	5	-	7		
	100.0	75.3	36.5	40.0	22.4	22.9	12.4	13.5	10.6	7.1	4.1	-	-	2.4	2.9	-	4.1		
吉田東部地区	327	242	131	111	97	75	56	38	29	21	23	1	-	12	6	2	10		
	100.0	74.0	40.1	33.9	29.7	22.9	17.1	11.6	8.9	6.4	7.0	0.3	-	3.7	1.8	0.6	3.1		

IV. 調査結果の分析

3. 「津波注意報」の認知と手段

※津波注意報：23時39分頃発表

■「津波注意報」の認知率は95.2%。
 ■情報入手手段では「テレビ」(81.8%)が多く、以下「防災行政無線」(64.5%)、「エリアメール」(26.2%)となっている。



<居住地区別> 単位：件,%

調査数	した	しなかった	無回答
荒浜地区	163	5	2
	100.0	2.9	1.2
吉田東部地区	310	13	4
	100.0	4.0	1.2

<居住地区別> 単位：件,%

地区	調査数	した (%)	しなかった (%)	無回答 (%)	防災行政無線 (%)	テレビ (%)	ラジオ (%)	エリアメール (%)	SNS (%)	インターネット (%)	巨理町ほっとメール (%)	近所 (%)	町内会 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
荒浜地区	163	107	131	21	48	1	10	40	10	5	-	1			
	100.0	65.6	80.4	12.9	29.4	0.6	6.1	24.5	6.1	3.1	-	0.6			
吉田東部地区	310	198	256	55	76	1	41	78	12	9	1	-			
	100.0	63.9	82.6	17.7	24.5	0.3	13.2	25.2	3.9	2.9	0.3	-			

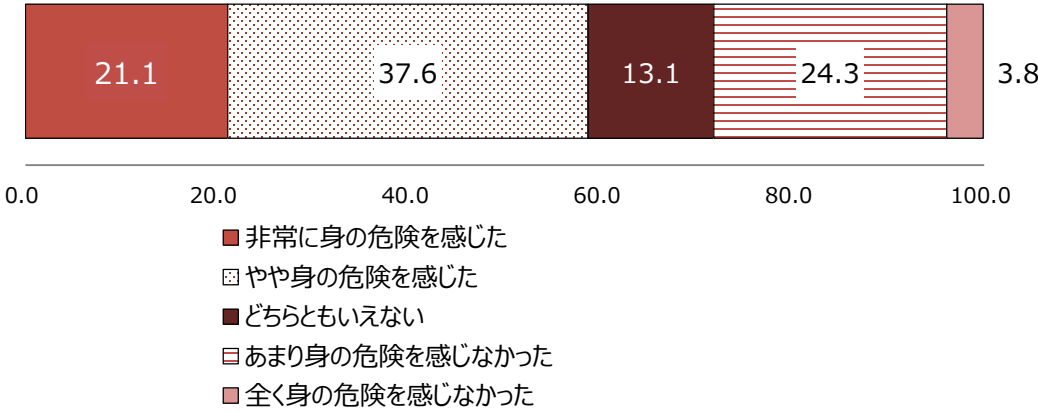
IV. 調査結果の分析

4. 津波注意報発表時の危機感

■ 「津波注意報」を聞いて身の危険を感じた割合（「非常に・・・感じた」+「やや・・・感じた」）は58.8%で、身の危険を感じなかった割合（「あまり・・・感じなかった」+「全く・・・感じなかった」）の28.1%を上回っている。

どの程度身の危険を感じたか（津波注意報）

n=473（津波注意報認知者）
単位：%



<居住地区別>

単位：件,%

居住地区	調査数	非常に身の危険を感じた (%)	やや身の危険を感じた (%)	どちらともいえない (%)	あまり身の危険を感じなかった (%)	全く身の危険を感じなかった (%)
荒浜地区	163	32	55	20	47	9
	100.0	19.6	33.7	12.3	28.8	5.5
吉田東部地区	310	68	123	42	68	9
	100.0	21.9	39.7	13.5	21.9	2.9

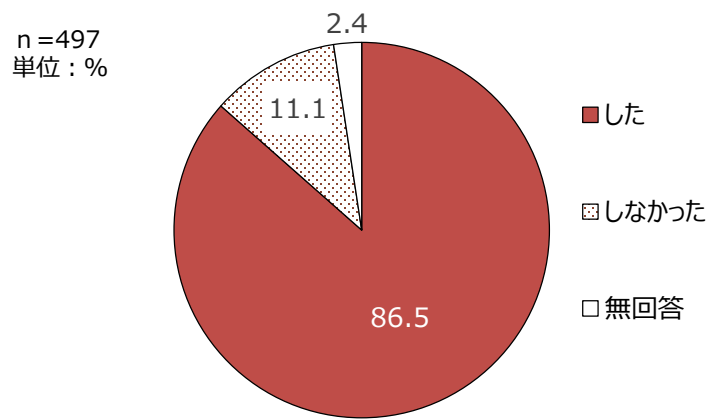
IV. 調査結果の分析

5. 「避難指示」の認知と手段

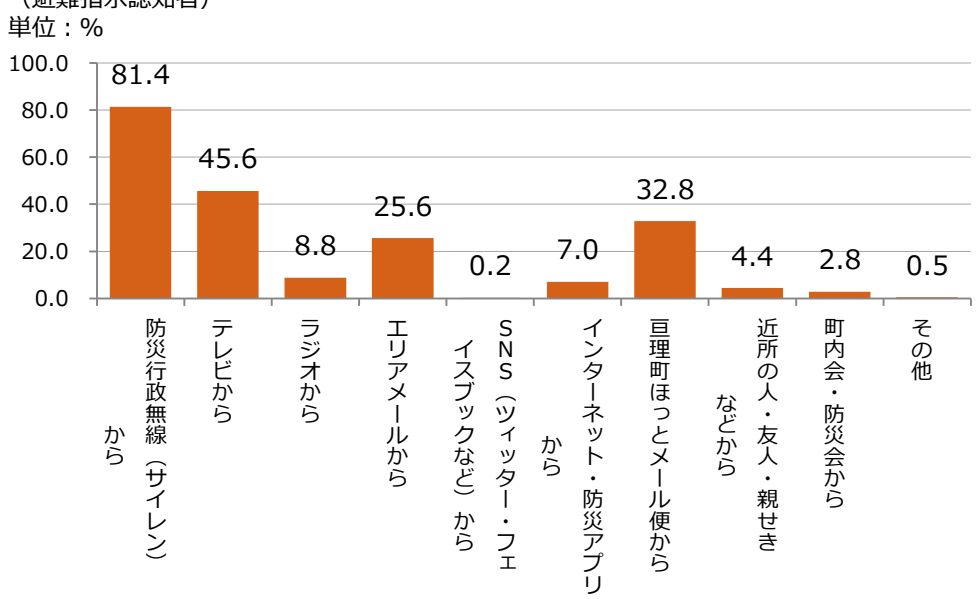
※避難指示：23時39分発令

■「避難指示」の認知率は86.5%。
 ■情報入手手段では、避難指示が自治体発令のため「防災行政無線」が81.4%で、以下「テレビ」が45.6%、「巨理町ほっとメール便」が32.8%と、津波注意報との違いがみられる。

巨理町からの避難指示を見聞きしたか



情報の入手手段（避難指示） (M.A.)



<居住地区別>

	単位：件,%			
	調査数	した	しなかった	無回答
荒浜地区	170	143	21	6
	100.0	84.1	12.4	3.5
吉田東部地区	327	287	34	6
	100.0	87.8	10.4	1.8

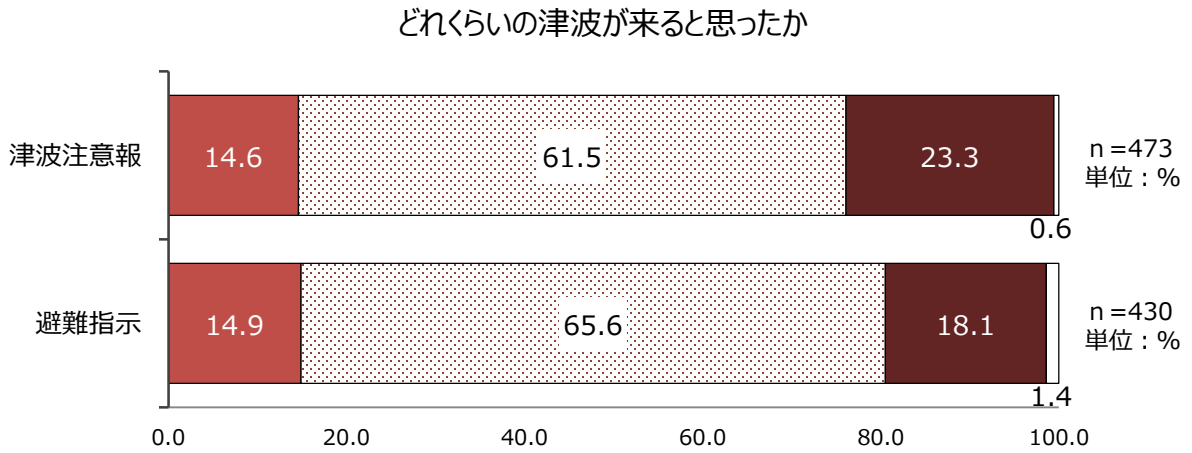
<居住地区別>

	単位：件,%													
	調査数	した	しなかった	無回答	防災行政無線(サイレン)から	テレビから	ラジオから	エリアメールから	SNS(ツイッター・フェイスブックなど)から	インターネット・防災アプリから	巨理町ほっとメール便から	近所の人・友人・親せきなどから	町内会・防災会から	その他
荒浜地区	143	118	60	10	44	-	6	45	8	3	-			
	100.0	82.5	42.0	7.0	30.8	-	4.2	31.5	5.6	2.1	-			
吉田東部地区	287	232	136	28	66	1	24	96	11	9	2			
	100.0	80.8	47.4	9.8	23.0	0.3	8.4	33.4	3.8	3.1	0.7			

IV. 調査結果の分析

6. 予報・避難指示等の認知と津波危険性の予測

■ 令和4年3月16日の地震では、津波注意報と避難指示が同時刻（23：39）に発表・発令されている。
 ■ 「津波は来ないと思った」割合は津波注意報（23.3%）よりも避難指示（18.1%）でわずかに低く、津波危険性の予測は避難指示の認知により高まっている。



- 東日本大震災と同じくらい
- ▨ 東日本大震災よりも小さい
- 津波は来ないと思った
- 無回答

<居住地区別>

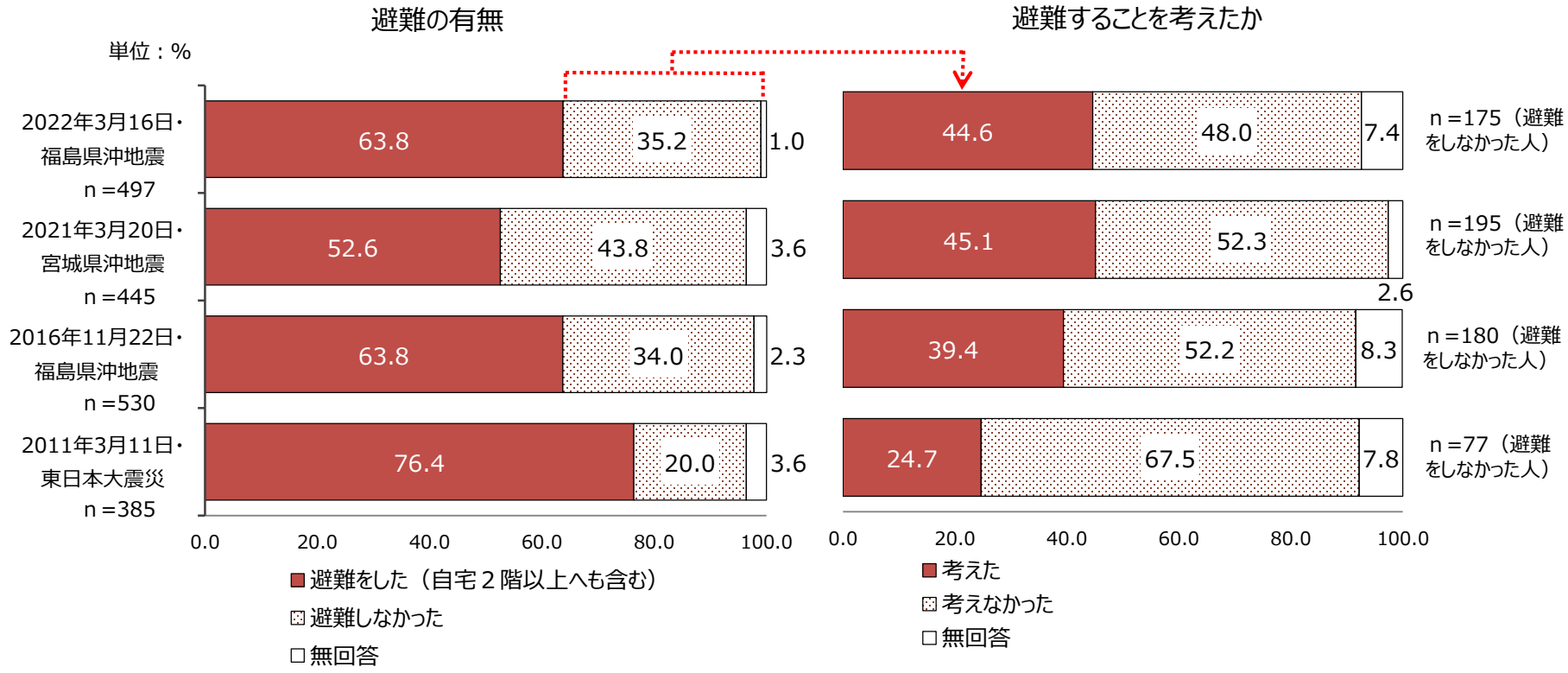
	津波注意報					避難指示				
	調査数	同東日本大震災と同じくらい	東日本大震災よりも小さい	も東日本大震災より	思津波は来ないと	無回答	調査数	同東日本大震災と同じくらい	も東日本大震災より	思津波は来ないと
荒浜地区	163	26	93	42	2	143	24	94	24	1
	100.0	16.0	57.1	25.8	1.2	100.0	16.8	65.7	16.8	0.7
吉田東部地区	310	43	198	68	1	287	40	188	54	5
	100.0	13.9	63.9	21.9	0.3	100.0	13.9	65.5	18.8	1.7

IV. 調査結果の分析

7. 避難の有無

■ 今回の地震による（自宅2階以上を含む）避難率は63.8%であり、「避難しなかった」人（35.2%）のうち、避難することを「考えた」人は4割半ば。半数弱が避難することを「考えなかった」と回答している。

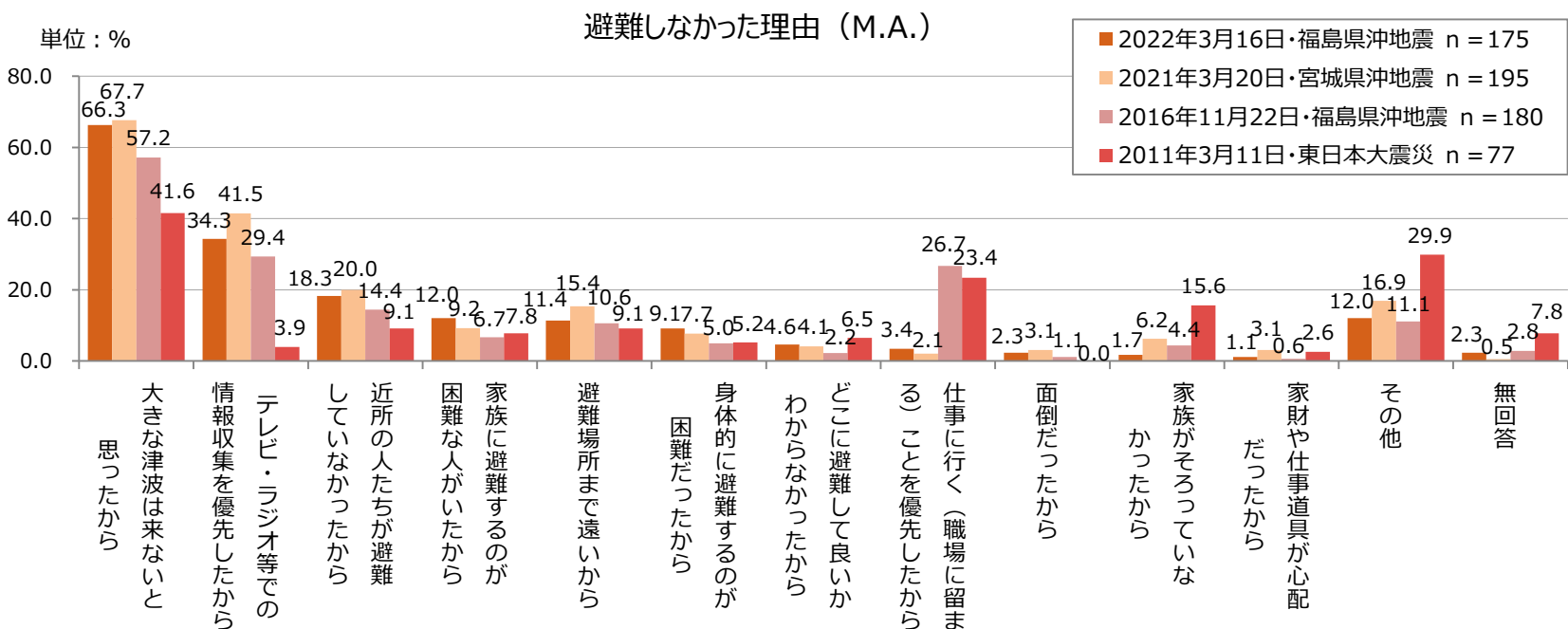
■ 過去の地震と比較すると、東日本大震災以降、避難率は下降傾向にあったが2022年地震では2021年地震から10ポイント程度上昇している。



IV. 調査結果の分析

8. 避難しなかった理由

■ 避難しなかった人にその理由をたずねたところ、「大きな津波は来ないと思ったから」が66.3%と最も多かった。
 ■ 過去の地震と比較すると、2022年地震および2021年地震では「大きな津波は来ないと思ったから」が東日本大震災から20ポイント以上と大幅に上昇している。また、2022年地震で2番目に回答の多い「テレビ・ラジオ等での情報収集を優先したから」でも、発災後すぐに停電となった東日本大震災に比べ30ポイント以上の上昇がみられる。一方、今回の地震が深夜であったことから、平日早朝～日中に発災した東日本大震災や2016年地震と比べ「仕事」が理由である割合は大幅に下降している。



※「仕事に行く(職場に留まる)ことを優先したから」は、2016年地震では「仕事・学校に行くのを優先したから」と表記
 単位: 件,%

<居住地区別 (2022年地震) >

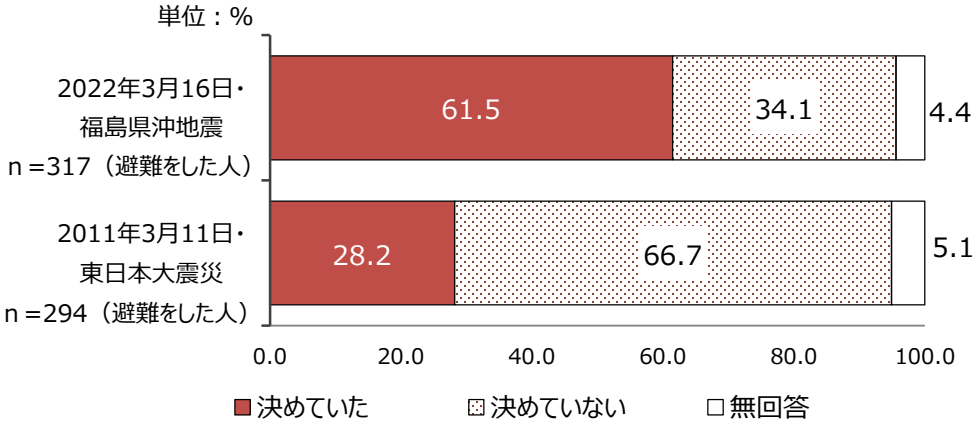
居住地区	件数	65%	46%	19%	15%	8%	6%	7%	4%	2%	4%	1%	-	4%	2%
荒浜地区	65	65	46	19	15	8	6	7	4	2	4	1	-	4	2
	100.0	100.0	70.8	29.2	23.1	12.3	9.2	10.8	6.2	3.1	6.2	1.5	-	6.2	3.1
吉田東部地区	110	110	70	41	17	13	14	9	4	4	-	2	2	17	2
	100.0	100.0	63.6	37.3	15.5	11.8	12.7	8.2	3.6	3.6	-	1.8	1.8	15.5	1.8

IV. 調査結果の分析

9. 避難する判断基準

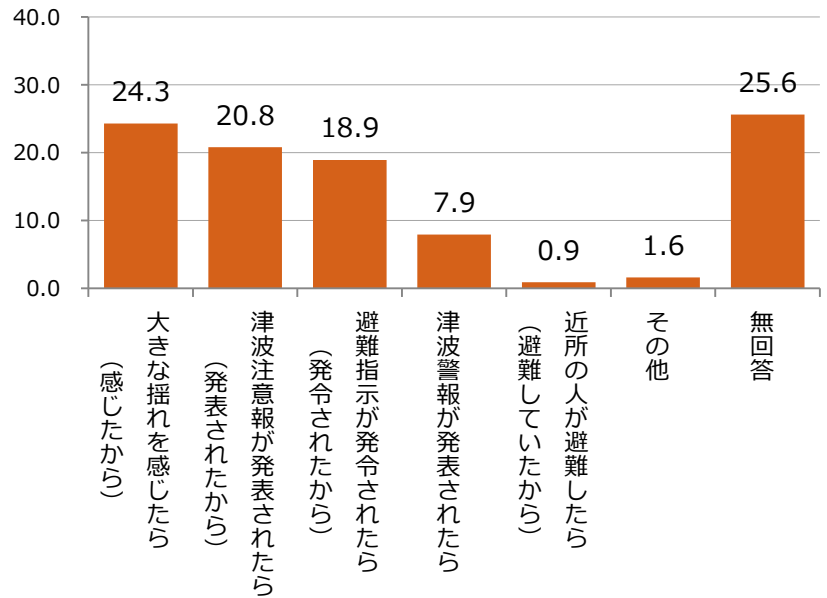
- 今回避難をした人のうち、避難の基準を予め決めていないと回答した割合は61.5%であった。
- 過去の地震と比較すると、予め基準を決めていた人は東日本大震災の約2倍（30ポイント以上上昇）となっている。
- 予め決めていない基準や今回そう判断した基準をたずねたところ、最も多かったのは「大きな揺れを感じたら（感じたから）」（24.3%）であった。

避難の基準を事前に決めていたか



n=317 (避難をした人)
単位：%

避難の判断基準・きっかけ



<居住地区別 (2022年地震)>

居住地区	調査数	決めていた	決めていない	無回答
		件	件	件
荒浜地区	104	65	34	5
	100.0	62.5	32.7	4.8
吉田東部地区	213	130	74	9
	100.0	61.0	34.7	4.2

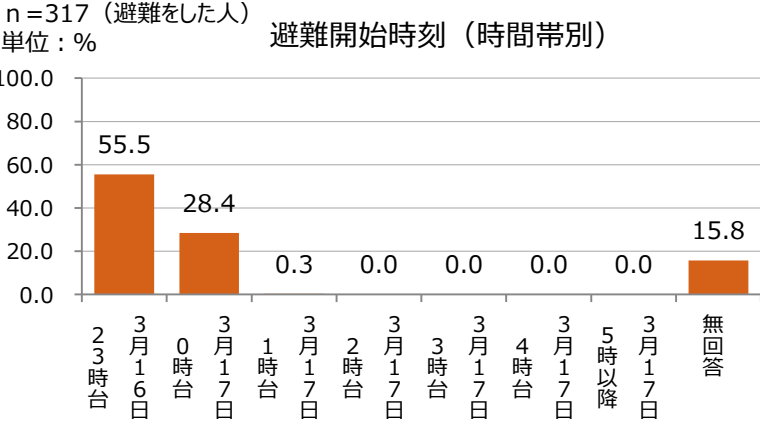
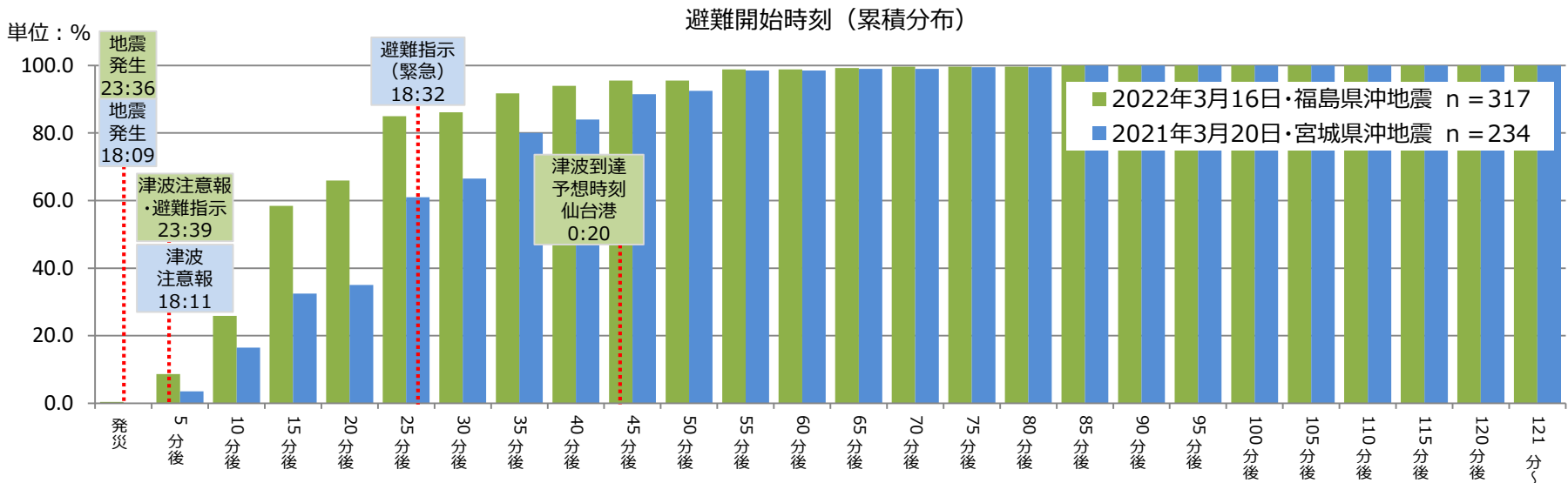
<居住地区別>

居住地区	避難の判断基準・きっかけ							
	大きな揺れを感じたら (感じたから)	津波注意報が発表されたら (発表されたから)	避難指示が発令されたら (発令されたから)	津波警報が発表されたら	(避難していたから)	近所の人避難したら	その他	無回答
荒浜地区	104	26	24	19	9	-	2	24
	100.0	25.0	23.1	18.3	8.7	-	1.9	23.1
吉田東部地区	213	51	42	41	16	3	3	57
	100.0	23.9	19.7	19.2	7.5	1.4	1.4	26.8

IV. 調査結果の分析

10. 避難開始時刻

- 避難開始時刻の回答（累計）を地震発生から5分ピッチで表すと、地震発生当初から10分後までの避難率は避難者の約1～2割で推移していたが、15分後に約6割に上昇し、発災から約35分後には9割以上の避難が行われていたことがわかった。
- 過去の地震と比較すると、発災20分後の避難率は約6割と2021年地震（約3割）の約2倍となっており、地震発生から避難開始までの経過時間についても平均で18.8分と、2021年地震（23.2分）から短縮され早期避難がなされている。



<居住地区別（2022年地震）>

単位：件,%

	調査数	23時台	03時台	13時台	23時台	33時台	43時台	53時台	無回答
		1日	7日	7日	7日	7日	以降		
荒浜地区	104	51	33	-	-	-	-	-	20
	100.0	49.0	31.7	-	-	-	-	-	19.2
吉田東部地区	213	125	57	1	-	-	-	-	30
	100.0	58.7	26.8	0.5	-	-	-	-	14.1

発災～避難開始までの経過時間

2022年3月16日	2021年3月20日
全体 = 平均18.8分	全体 = 平均23.2分
荒浜地区 = 平均19.5分 (+0.7分)	荒浜地区 = 平均23.2分 (+0.0分)
吉田東部地区 = 平均18.5分 (-0.3分)	吉田東部地区 = 平均23.2分 (-0.0分)

※ () は全体平均との差

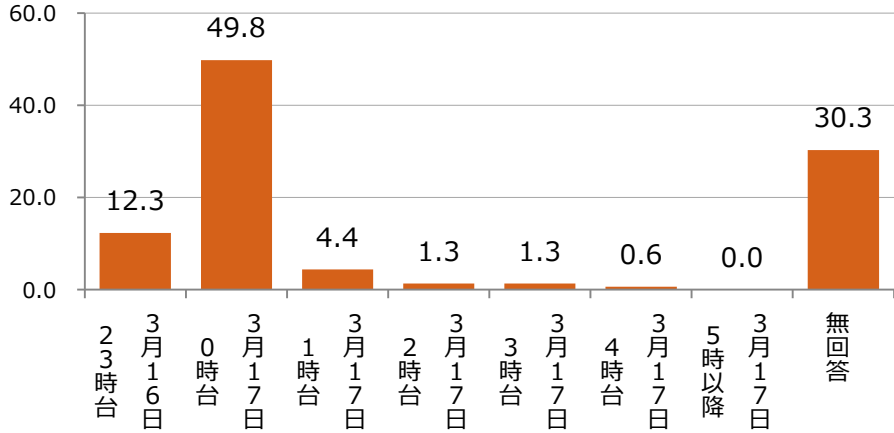
IV. 調査結果の分析

11. 避難完了時刻

- 避難完了時刻は、「3月17日 0時台」が最も多く、約6割が完了している。
- 避難完了時刻は不明率も高いが、これを除いた避難開始～避難完了までの避難所要時間の平均は、26.4分だった。

n=317 (避難をした人)
単位：%

避難完了時刻



<居住地区別>

単位：件,%

居住地区	23時台	3月16日 0時台	3月17日 1時台	3月17日 2時台	3月17日 3時台	3月17日 4時台	3月17日 5時以降	無回答	
荒浜地区	104	11	50	2	-	2	1	-	38
	100.0	10.6	48.1	1.9	-	1.9	1.0	-	36.5
吉田東部地区	213	28	108	12	4	2	1	-	58
	100.0	13.1	50.7	5.6	1.9	0.9	0.5	-	27.2

避難開始～避難完了までの避難所要時間	
2022年3月16日	2021年3月20日
全体 = 平均26.4分	全体 = 平均19.0分
荒浜地区 = 平均26.3分 (-0.1分)	荒浜地区 = 平均19.9分 (+0.9分)
吉田東部地区 = 平均26.5分 (+0.1分)	吉田東部地区 = 平均18.4分 (-0.6分)

※ () は全体平均との差

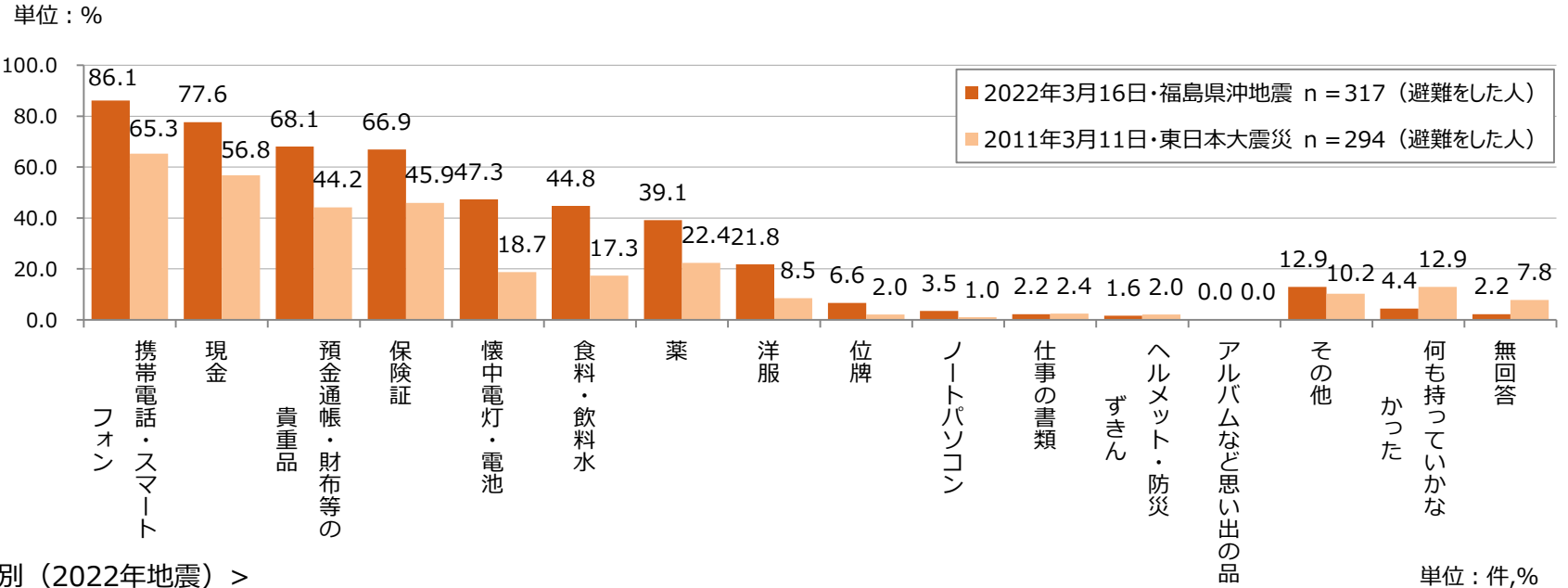
IV. 調査結果の分析

12. 避難時の持ち出し品

■ 避難の際には、「携帯電話・スマートフォン」(86.1%)だけでなく、「現金」、「預金通帳・財布等の貴重品」、「保険証」、「懐中電灯・電池」、「食料・飲料水」、「薬」などを携行していた人が多かった。

■ 東日本大震災と比較すると、ほとんどの項目で携行割合が上昇しており、特に「懐中電灯・電池」、「食料・飲料水」は30ポイント程度の上昇がみられる。「28. 東日本大震災での経験の活用」(P37)にも示すとおり、東日本大震災の経験を経て持ち出し袋の準備がなされていたため、携行がスムーズに行われたことがわかる。

持ち出し品 (M.A.)



<居住地区別 (2022年地震) >

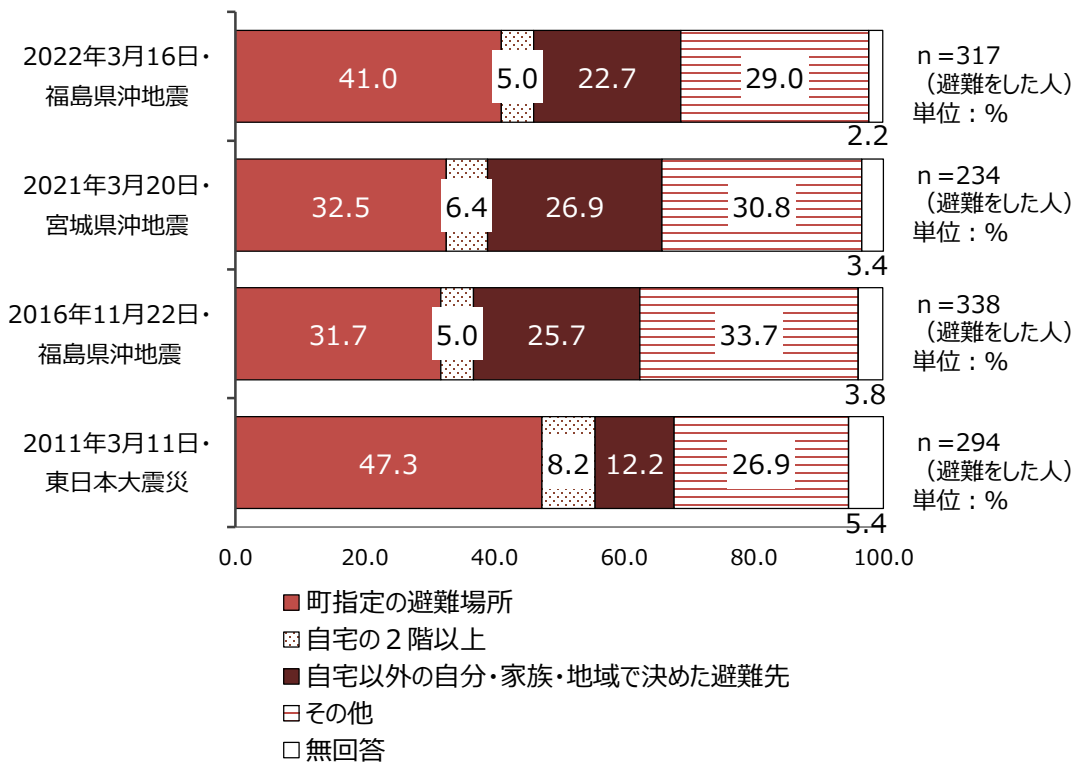
居住地区	単位: 件, %																	
	携帯電話・スマートフォン	現金	預金通帳・財布等の貴重品	保険証	懐中電灯・電池	食料・飲料水	薬	洋服	位牌	ノートパソコン	仕事の書類	ずきん	ヘルメット・防災	アルバムなど思い出の品	その他	なかった	何も持っていかなかった	無回答
荒浜地区	104	90	85	72	74	41	45	42	19	11	5	4	-	-	16	3	3	
	100.0	86.5	81.7	69.2	71.2	39.4	43.3	40.4	18.3	10.6	4.8	3.8	-	-	15.4	2.9	2.9	
吉田東部地区	213	183	161	144	138	109	97	82	50	10	6	3	5	-	25	11	4	
	100.0	85.9	75.6	67.6	64.8	51.2	45.5	38.5	23.5	4.7	2.8	1.4	2.3	-	11.7	5.2	1.9	

IV. 調査結果の分析

13. 避難先

- 避難先は、「町指定の避難場所」(41.0%)、「自宅以外の自分・家族・地域で決めた避難先」(22.7%)の合わせて約6割が、予め決めてある自宅以外の避難先に移動している。意図的に「自宅の2階以上」を避難先として選択した人は5.0%となっている。
- 過去の地震と比較すると、「自宅以外の自分・家族・地域で決めた避難先」への避難割合は、東日本大震災以降10ポイント以上上昇している。
- 「自宅以外の自分・家族・地域で決めた避難先」の具体的な場所については、最寄りの量販店や親戚宅、国道6号線沿い（の向こう側）などの記載があった。「その他」の回答についても同様の内容が多くみられるが、これらは、予め決めていたわけではないが、今回の津波避難にあたって避難先として選択したという意味になる。

避難先



<居住地区別（2022年地震）>

単位：件,%

	調査数	町指定の避難場所	自宅の2階以上	決めた・家族・自宅以外の避難先	その他	無回答
荒浜地区	104	33	2	27	39	3
	100.0	31.7	1.9	26.0	37.5	2.9
吉田東部地区	213	97	14	45	53	4
	100.0	45.5	6.6	21.1	24.9	1.9

IV. 調査結果の分析

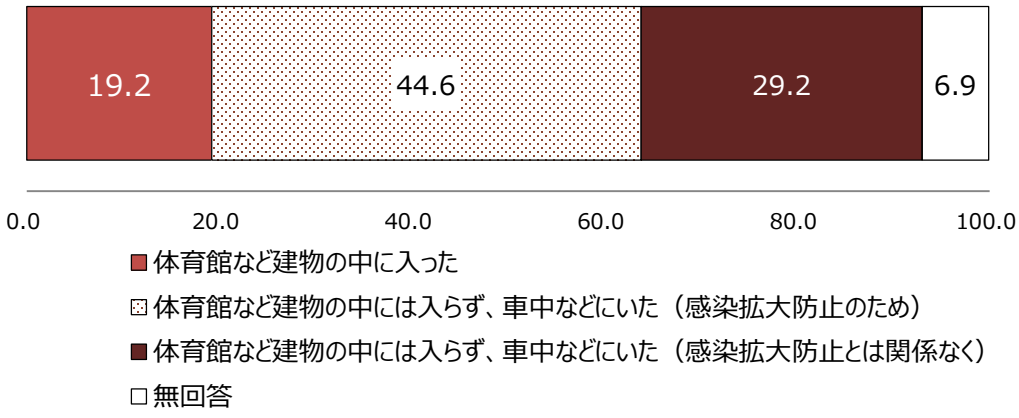
14. 町指定の避難場所で建物に入ったか

■「町指定の避難場所」への避難者に対し、建物内に入ったかをたずねたところ、7割強の方が建物内には入らず車中などで過ごしており、そのうちの約6割（全体の44.6%）が「感染拡大防止のため」に建物内に入らなかったと回答している。

n = 130 (町指定の避難場所に避難をした人)
単位：%

町指定の避難場所で建物に入ったか

<居住地区別>



単位：件,%

	調査数	に体育館など建物の中に入った	防どに体育館など建物の中に入らずにいた（感染拡大防止のため）	防どに体育館など建物の中に入らずにいた（感染拡大防止とは関係なく）	無回答
荒浜地区	33	9	14	7	3
	100.0	27.3	42.4	21.2	9.1
吉田東部地区	97	16	44	31	6
	100.0	16.5	45.4	32.0	6.2

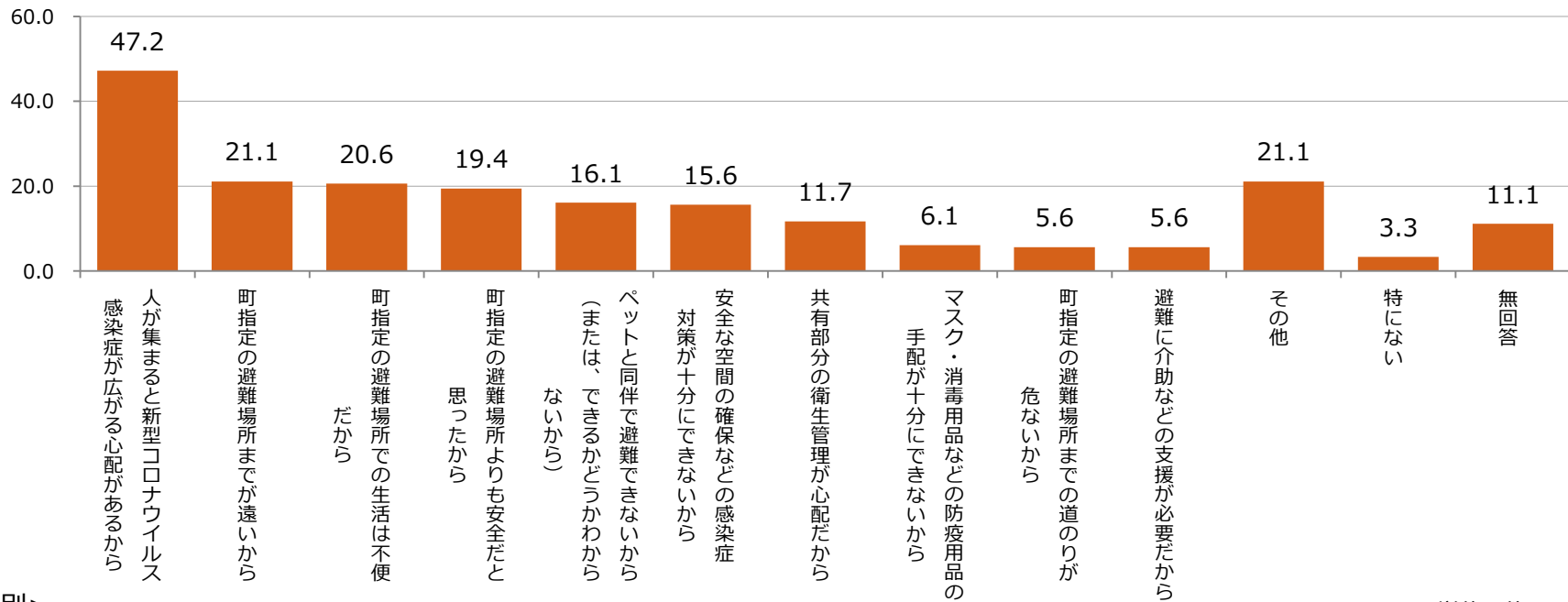
IV. 調査結果の分析

15. 町指定の避難場所以外に避難した理由

■ 町指定の避難場所以外に避難した理由としては、「人が集まると新型コロナウイルス感染症が広がる心配があるから」（47.2%）が多く、前項で示した結果と同様に、感染拡大への懸念が避難行動に大きな影響を及ぼしたことがわかる。

n = 180 (町指定の避難場所以外に避難した人)
単位：%

町指定の避難場所以外に避難した理由 (M.A.)



<居住地区別>

単位：件,%

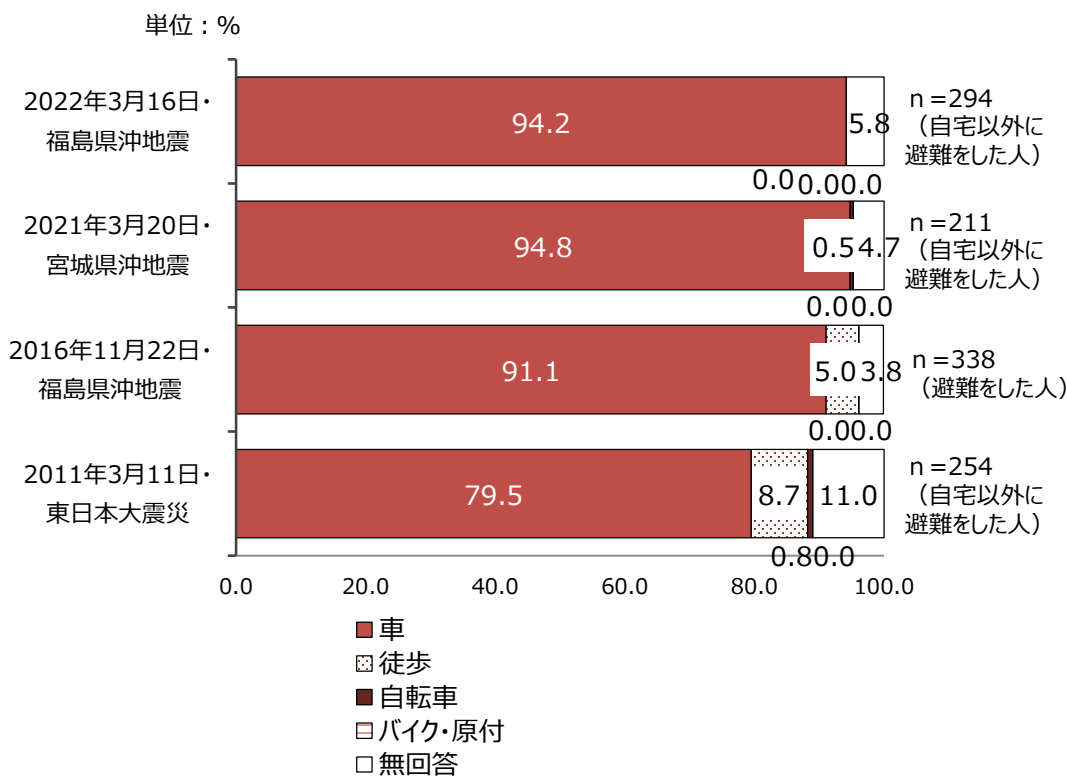
居住地区	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
荒浜地区	68	34	12	15	11	11	8	8	4	4	3	15	4	9		
	100.0	50.0	17.6	22.1	16.2	16.2	11.8	11.8	5.9	5.9	4.4	22.1	5.9	13.2		
吉田東部地区	112	51	26	22	24	18	20	13	7	6	7	23	2	11		
	100.0	45.5	23.2	19.6	21.4	16.1	17.9	11.6	6.3	5.4	6.3	20.5	1.8	9.8		

IV. 調査結果の分析

16. 避難手段

■ 避難先への移動手段は、「車」が94.2%と大多数を占める。
 ■ 「車」による避難は東日本大震災時も全体の約8割と多くを占めていたが、以降、さらに車避難者の割合は上昇し、2016年地震、2021年地震、2022年地震のいずれも9割以上となっている。

避難手段



<居住地区別（2022年地震）>

単位：件,%

	調査数	車	徒歩	自転車	バイク・原付	無回答
荒浜地区	99	97	-	-	-	2
	100.0	98.0	-	-	-	2.0
吉田東部地区	195	180	-	-	-	15
	100.0	92.3	-	-	-	7.7

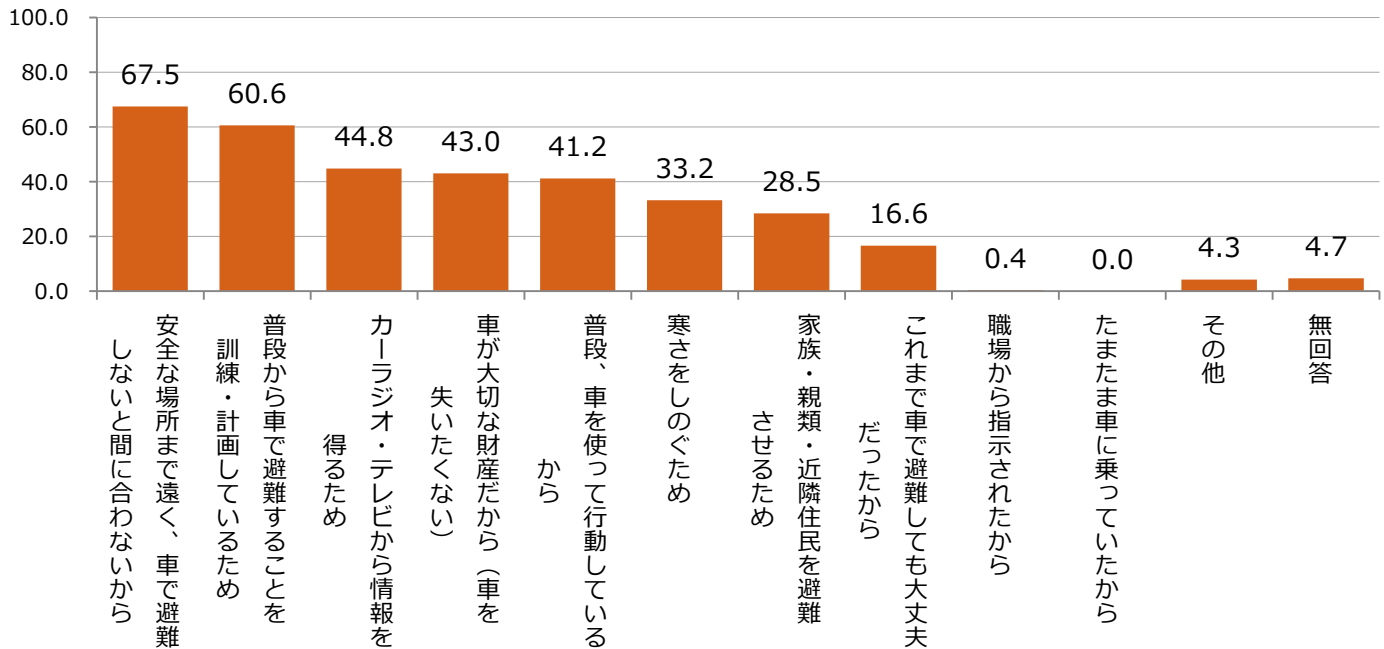
IV. 調査結果の分析

17. 車で避難した理由

■ 車避難を選択した理由では、「安全な場所まで遠く、車で避難しないと間に合わないから」(67.5%)、「普段から車で避難することを訓練・計画しているため」(60.6%)が6割以上と多く、以下「カーラジオ・テレビから情報を得るため」(44.8%)、「車が大切な財産だから」(43.0%)、「普段、車を使って行動しているから」(41.2%)、「寒さをしのぐため」(33.2%)、「家族・親類・近隣住民を避難させるため」(28.5%)、「これまで車で避難しても大丈夫だったから」(16.6%)、「職場から指示されたから」(0.4%)、「たまたま車に乗っていたから」(0.0%)、「その他」(4.3%)、「無回答」(4.7%)が続いている。

n = 277 (車で避難をした人)
単位：%

車で避難した理由 (M.A.)



<居住地区別>

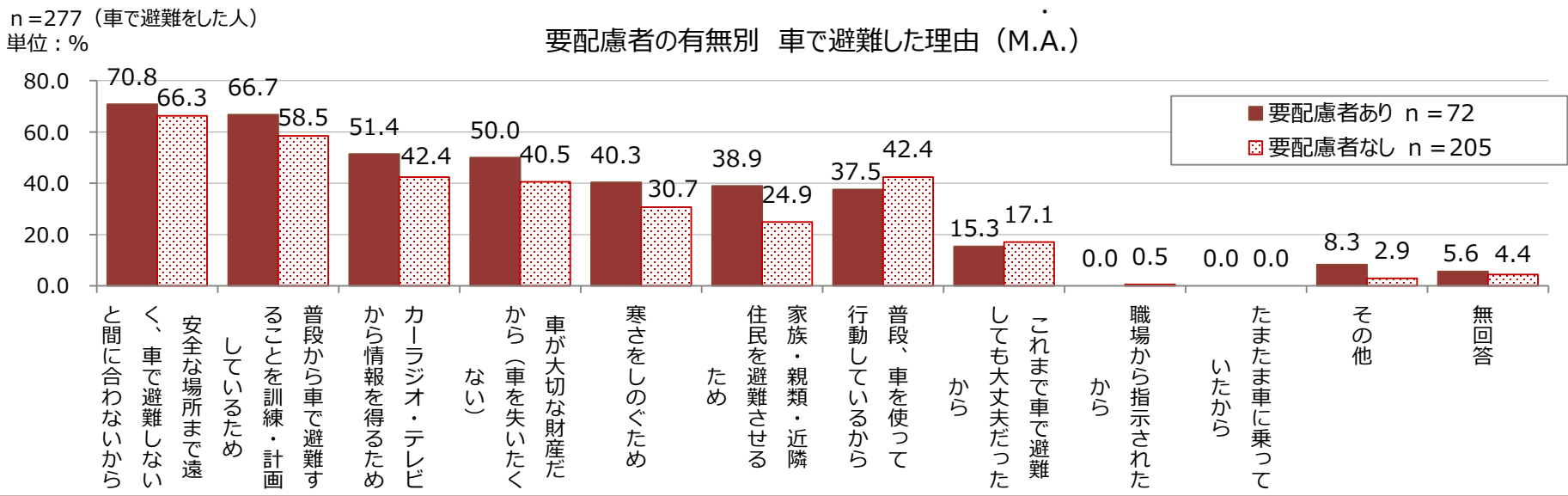
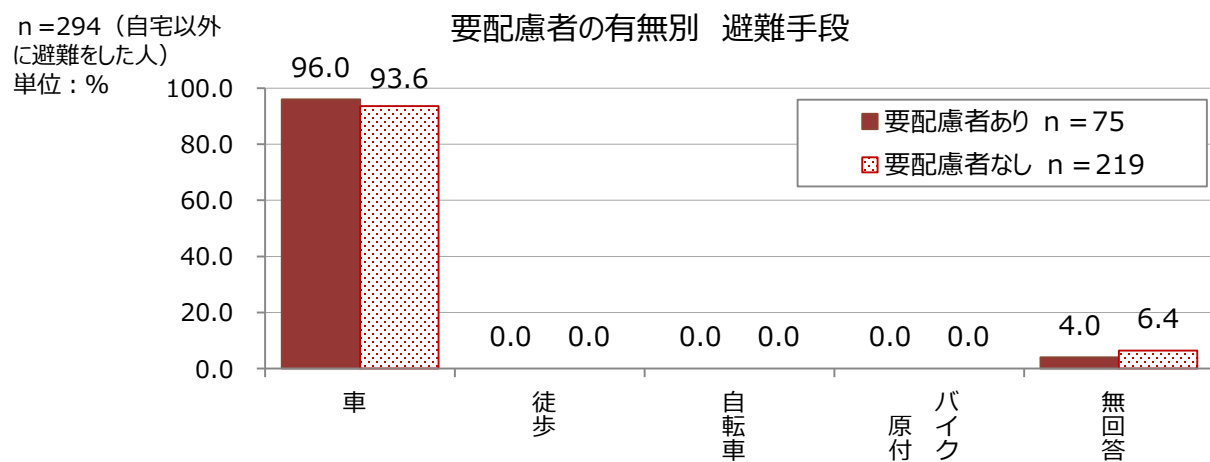
単位：件,%

居住地区	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
荒浜地区	97	62	45	45	48	37	31	28	15	-	-	4	7	
	100.0	63.9	46.4	46.4	49.5	38.1	32.0	28.9	15.5	-	-	4.1	7.2	
吉田東部地区	180	125	123	79	71	77	61	51	31	1	-	8	6	
	100.0	69.4	68.3	43.9	39.4	42.8	33.9	28.3	17.2	0.6	-	4.4	3.3	

IV. 調査結果の分析

18. 要配慮者の有無別にみる避難手段

■ 避難手段の選択を、要配慮者の有無別にみたところ、要配慮者あり・なしにかかわらず、「車」が大多数を占める。
 ■ 車避難をした理由では、要配慮者ありの世帯では「家族・親類・近隣住民を避難させるため」（38.9%）が要配慮者なしの世帯に比べ高い。

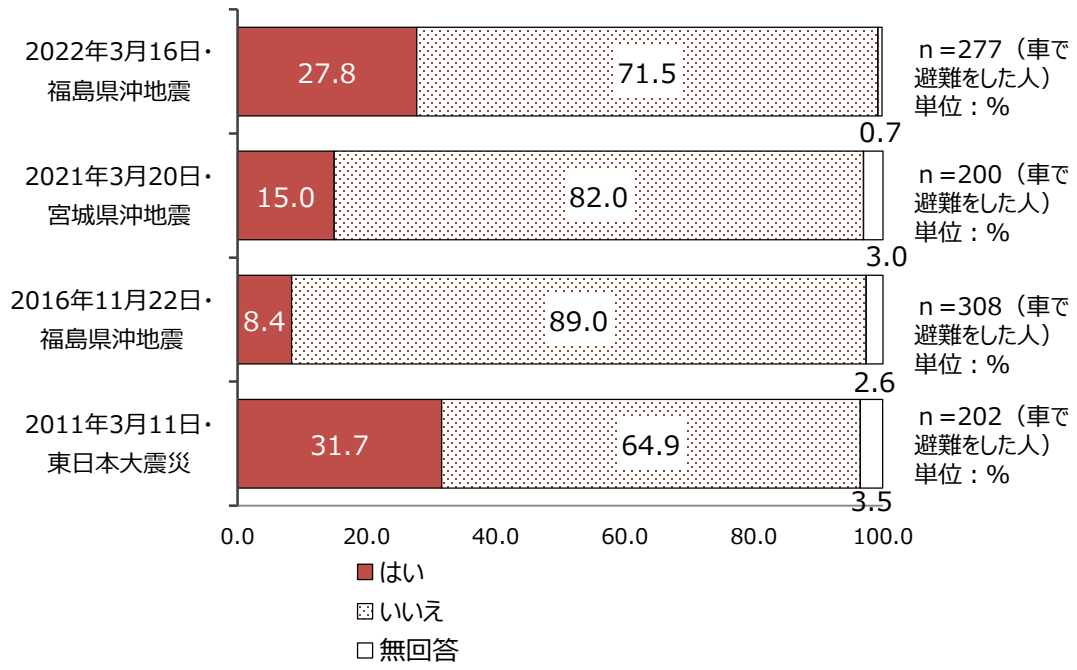


IV. 調査結果の分析

19. 車での避難時に渋滞に遭遇したか

- 車による避難者のうち、渋滞に遭遇した割合は27.8%であった。
- 過去の地震と比較すると、2016年地震では渋滞の遭遇率が東日本大震災から大幅に下降したが、2022年地震では再び東日本大震災と概ね同様の水準にまで上昇している。
- 居住地区別にみると、吉田東部地区では渋滞に遭遇した割合が約3割と、荒浜地区に比べ高い。

渋滞に遭遇したか



<居住地区別（2022年地震）>

単位：件,%

	調査数	はい	いいえ	無回答
荒浜地区	97	21	76	-
	100.0	21.6	78.4	-
吉田東部地区	180	56	122	2
	100.0	31.1	67.8	1.1

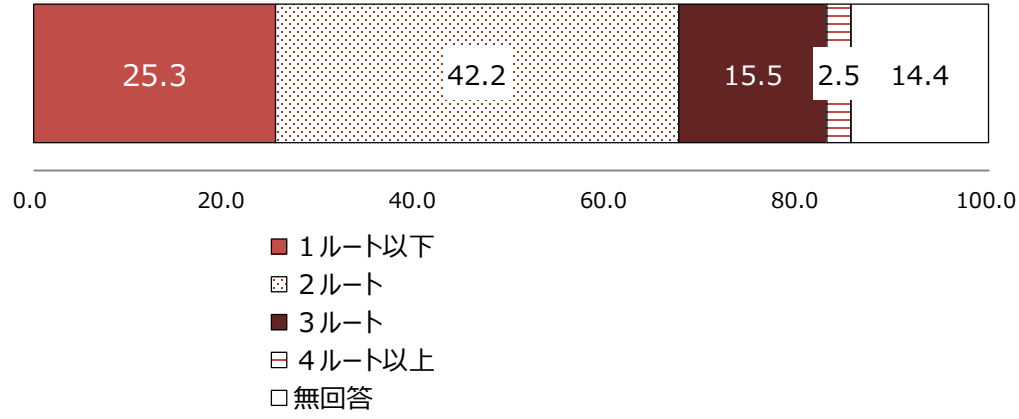
IV. 調査結果の分析

20. 事前に計画・訓練していた避難ルート数

■ 事前に計画・訓練していた車による避難ルート数は、「2ルート」(42.2%)が多く、複数ルート(2ルート以上)計画・訓練していた割合は約6割となっている。

事前に計画・訓練していた避難ルートの数

n=277 (車で避難をした人)
単位：%



<居住地区別>

単位：件,%

居住地区	調査数	1ルート以下	2ルート	3ルート	4ルート以上	無回答
荒浜地区	97	20	41	17	4	15
	100.0	20.6	42.3	17.5	4.1	15.5
吉田東部地区	180	50	76	26	3	25
	100.0	27.8	42.2	14.4	1.7	13.9

IV. 調査結果の分析

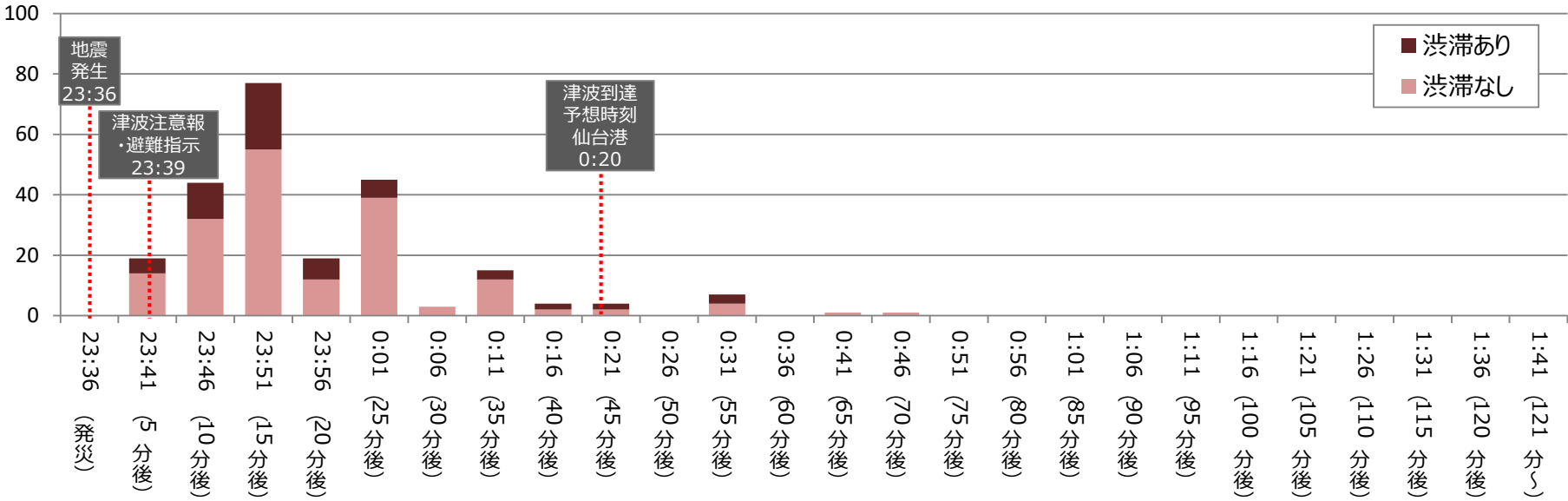
21. 車避難における避難開始時刻と渋滞・避難所要時間

■ 避難者のうち車避難者について、避難開始時刻と渋滞の有無の関係を分析すると、避難開始のタイミングが発災後30分に集中していることから、発災直後から渋滞が発生しており、発災15分後の避難ピークにおいて渋滞遭遇ケースもピークを迎えている。

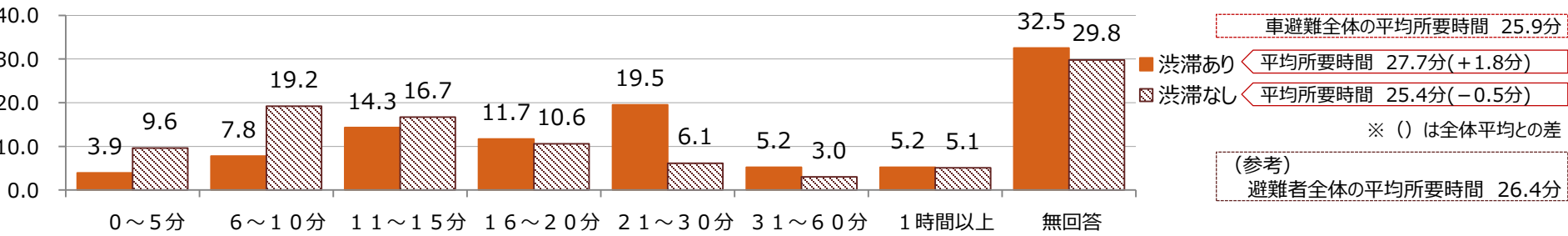
■ 避難所要時間は渋滞がない場合では、「6～10分」（19.2%）、渋滞がある場合は「21～30分」（19.5%）が多い。避難にかかった平均所要時間は、渋滞ありの場合が27.7分、渋滞なしが25.4分と大きな差は見られなかった。

n = 277 (車で避難をした人)
単位：件

車避難者の避難開始時刻と渋滞の有無



車避難者における渋滞の有無別避難所要時間



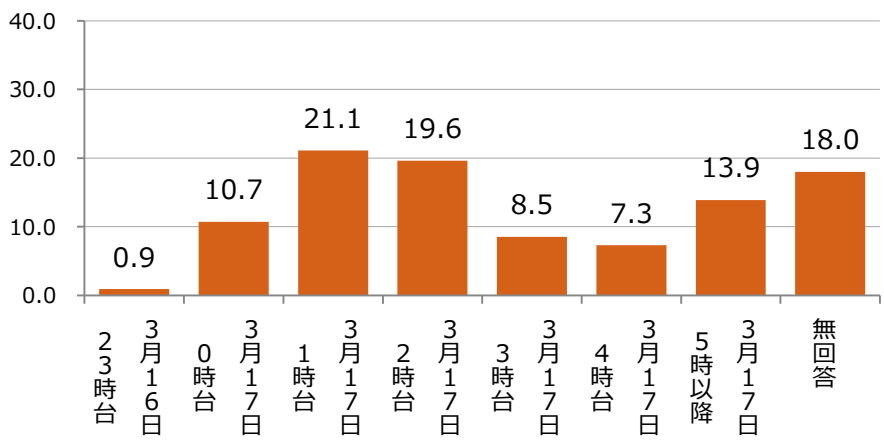
IV. 調査結果の分析

22. 避難終了時刻 (※避難場所から自宅に戻るなど普通の生活に戻った時刻)

- 避難場所から自宅に戻るなどして避難を終了した時刻は、翌17日の1時台が21.1%と最も多く、次いで17日の2時台が19.6%。避難者の約7割が津波注意報および避難指示が解除された17日の5:00以前に避難を終了している。
- 避難完了～避難終了までの避難場所滞在時間は、全体の平均で168.3分(2時間48分)だった。

n=317 (避難をした人)
単位：%

避難終了時刻 (時間帯別)



<居住地区別>

単位：件,%

居住地区	件数	3月16日 23時台	3月17日 0時台	3月17日 1時台	3月17日 2時台	3月17日 3時台	3月17日 4時台	3月17日 5時以降	無回答
荒浜地区	104	-	13	19	23	10	9	15	15
	100.0	-	12.5	18.3	22.1	9.6	8.7	14.4	14.4
吉田東部地区	213	3	21	48	39	17	14	29	42
	100.0	1.4	9.9	22.5	18.3	8.0	6.6	13.6	19.7

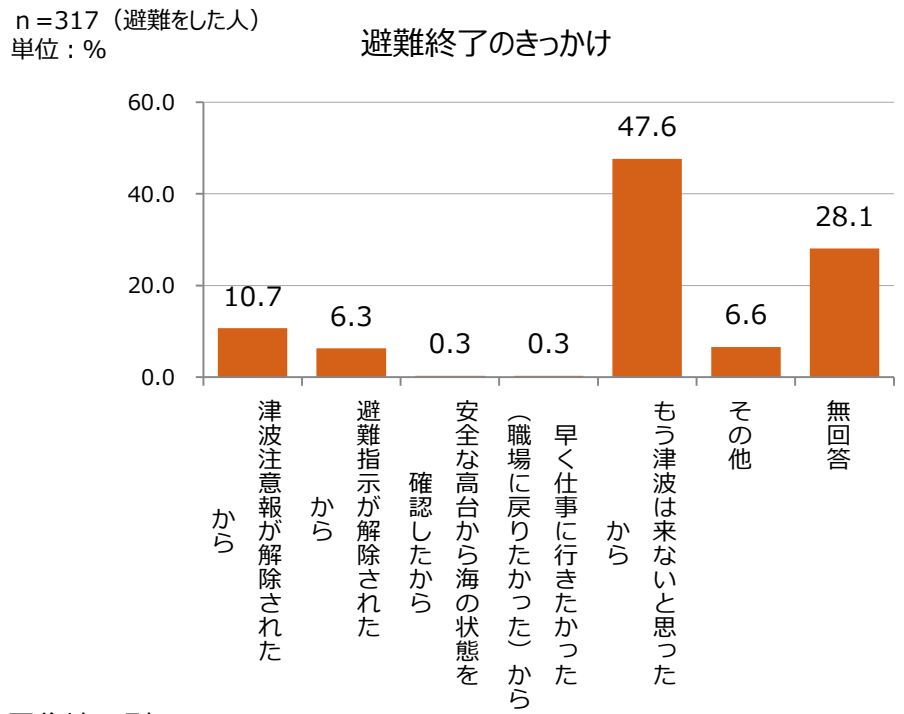
避難完了～避難終了までの避難場所滞在時間	
2022年3月16日	2021年3月20日
全体 = 平均168.3分	全体 = 平均93.4分
荒浜地区 = 平均182.7分 (+14.4分)	荒浜地区 = 平均90.7分 (-2.7分)
吉田東部地区 = 平均161.0分 (-7.3分)	吉田東部地区 = 平均94.8分 (+1.4分)

※ () は全体平均との差

IV. 調査結果の分析

23. 避難終了のきっかけ

■ 避難場所での避難を終了したきっかけでは、「もう津波は来ないと思ったから」が47.6%と最も多い。



<居住地区別> 単位：件,%

地区	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
荒浜地区	104	13	3	-	-	54	6	28
	100.0	12.5	2.9	-	-	51.9	5.8	26.9
吉田東部地区	213	21	17	1	1	97	15	61
	100.0	9.9	8.0	0.5	0.5	45.5	7.0	28.6

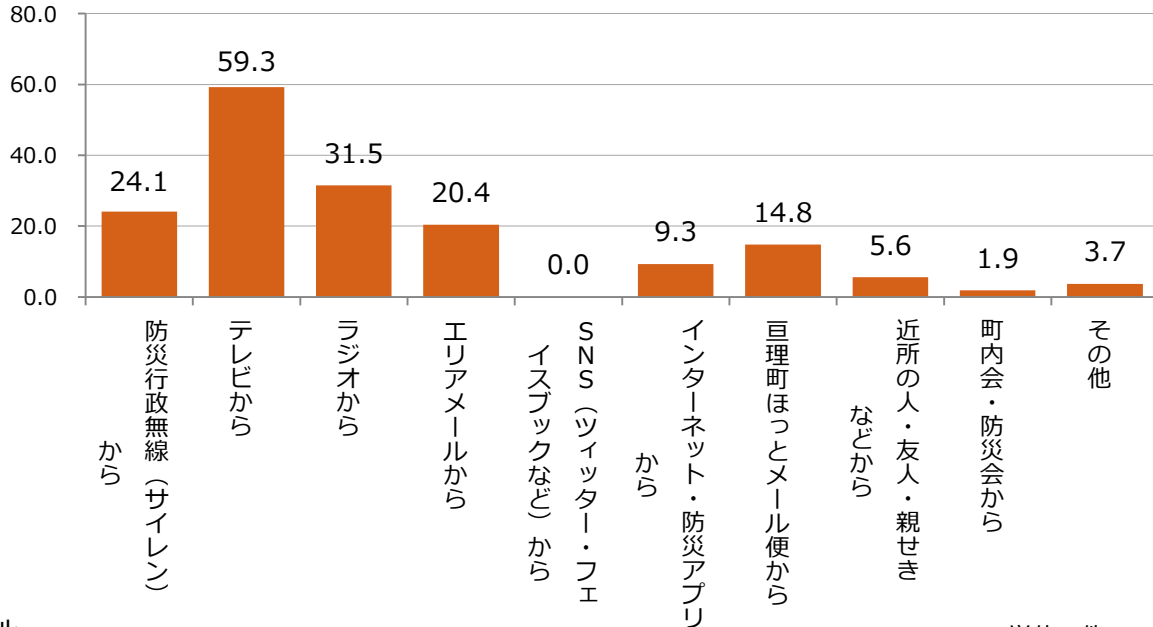
IV. 調査結果の分析

24. 避難終了のきっかけとなる情報の認知

■ 避難終了のきっかけとなる情報は、「テレビ」が59.3%と最も多く、次いで「ラジオ」（31.5%）、「防災行政無線（サイレン）」（24.1%）、「エリアメール」（20.4%）であった。

n = 54 (津波注意報・避難指示の解除をきっかけに避難を終了した人)
単位：%

情報の入手手段（津波注意報解除／避難指示解除）



<居住地区別>

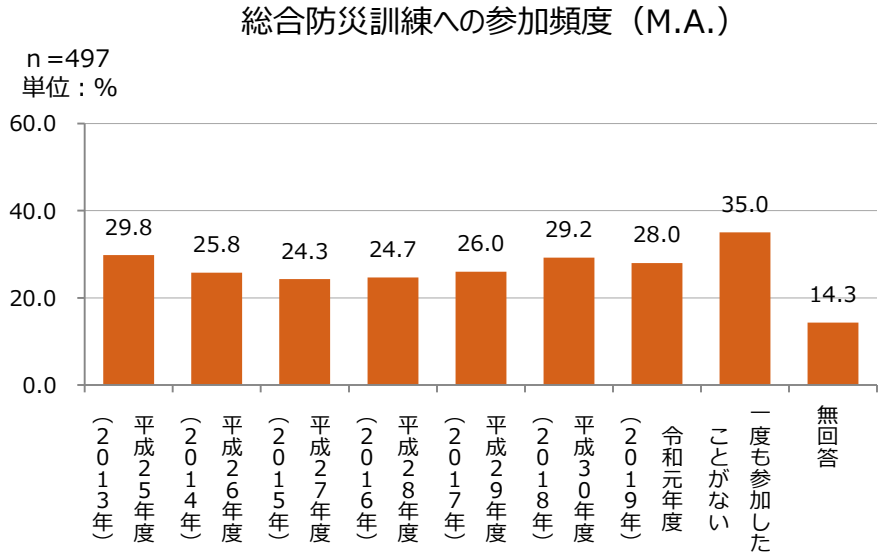
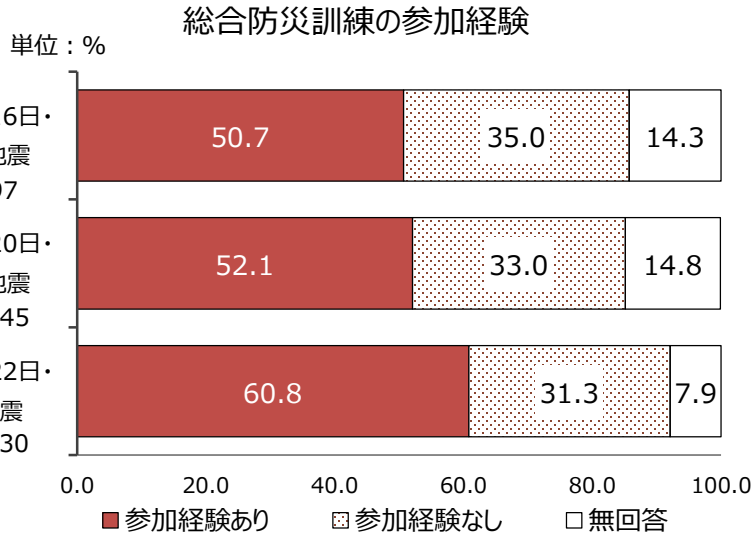
単位：件,%

居住地区	件数	テレビ	ラジオ	防災行政無線	エリアメール	SNS	インターネット	巨理町ほっとメール便	近所の人	町内会	その他
荒浜地区	16	3	13	3	5	-	-	4	-	-	1
	100.0	18.8	81.3	18.8	31.3	-	-	25.0	-	-	6.3
吉田東部地区	38	10	19	14	6	-	5	4	3	1	1
	100.0	26.3	50.0	36.8	15.8	-	13.2	10.5	7.9	2.6	2.6

IV. 調査結果の分析

25. 総合防災訓練の参加経験・頻度

■ これまでの巨理町総合防災訓練への参加経験は、「参加経験あり」が50.7%、「参加経験なし」が35.0%となっている。
 ■ 過去の地震と比較すると、2016年地震以降「参加経験あり」が微減している。
 ■ 参加頻度では、東日本大震災後の平成25年度と直近の平成30年度・令和元年度の訓練への参加が約28～30%とわずかに高い。



<居住地区別 (2022年地震)>
単位：件,%

	調査数	参加経験あり	参加経験なし	無回答
荒浜地区	170	85	61	24
	100.0	50.0	35.9	14.1
吉田東部地区	327	167	113	47
	100.0	51.1	34.6	14.4

<居住地区別>
単位：件,%

荒浜地区	170	45	37	37	39	41	50	45	61	24
	100.0	26.5	21.8	21.8	22.9	24.1	29.4	26.5	35.9	14.1
吉田東部地区	327	103	91	84	84	88	95	94	113	47
	100.0	31.5	27.8	25.7	25.7	26.9	29.1	28.7	34.6	14.4

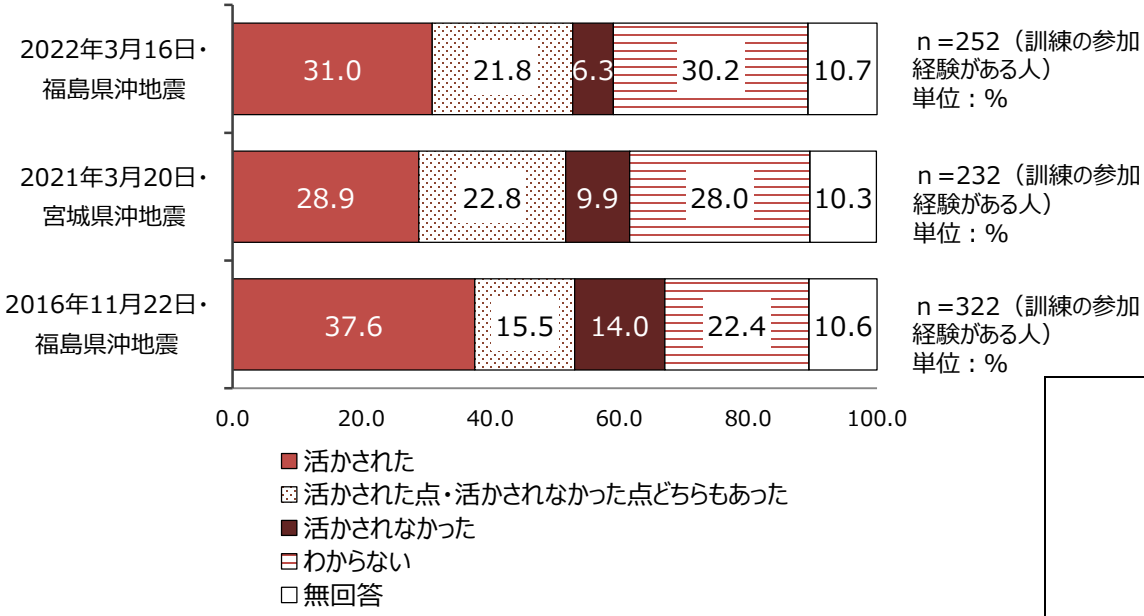
※ 令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で未実施

IV. 調査結果の分析

26. 総合防災訓練での経験の活用

- 総合防災訓練参加経験者において、今回の避難行動で、訓練経験が「活かされた」と考えた人が31.0%、「活かされた点・活かされなかった点どちらもあった」(21.8%)を合わせると、5割以上(52.8%)が『活かされた点があった』と回答している。
- 過去の地震と比較すると、2022年地震では「活かされた」が2016年地震から約7ポイント下降しているものの、「活かされた点・活かされなかった点どちらもあった」を合わせた『活かされた点があった』の回答率は同程度となっている。
- 居住地区別にみると、吉田東部地区では「活かされた」と考えた人が34.1%と、荒浜地区に比べ高い。

総合防災訓練での経験が活かされたか



<居住地区別(2022年地震)>

	調査数	活かされた	点活か活 どかさ られれ もなた あか点 ったた	活かされ な な か った	わ か ら な い	無 回 答
荒浜地区	85	21	18	5	29	12
	100.0	24.7	21.2	5.9	34.1	14.1
吉田東部地区	167	57	37	11	47	15
	100.0	34.1	22.2	6.6	28.1	9.0

IV. 調査結果の分析

26. 総合防災訓練での経験の活用

今回の地震による津波避難に、総合防災訓練の経験が活かされたか、について具体的な意見も記載して頂いている。主な意見を要約すると、以下のような内容であった。

総合防災訓練の経験が活かされた点・活かされなかった点

活かされた

代表的な意見には、以下の要旨が挙げられる。

- ①避難場所およびそこまでの（渋滞を回避できる）ルートが事前に確認できていたので、スムーズに移動できた
- ②避難指示等の情報が出てから迅速に行動できた
- ③非常時持ち出し品を事前に準備しておりスムーズに避難できた
- ④事前に家族と相談している避難場所に避難できた
- ⑤迷いなく、素早く（空振りを恐れず）避難できた
- ⑥必要な情報の把握に努めることができた

総合防災訓練への参加により、いざというときの津波避難行動が身に付き、指定避難場所や家族らと相談している避難場所およびそこまでのルートが明確になっているため、「迅速に行動できた」「冷静に、迷いなく行動できた」などの意見が目立った。

要領や手順が身につくことに加え、事前に非常時の備えや持ち出し品の準備ができていたため、すぐ身に着けて避難することができたという意見、大きな地震＝津波という意識を常に持っていたことでスムーズに避難できたという意見などもみられた。

活かされなかった

代表的な意見には、以下の要旨が挙げられる。

- ①「これくらいなら大丈夫」「東日本大震災より小さい」などと考え避難の判断に迷った（避難しなかった）
- ②避難のためのルートを把握できていなかった
- ③家具の固定や非常時持ち出し品の準備が不足していた
- ④実際に地震に遭うことで混乱した
- ⑤避難時に渋滞に巻き込まれた
- ⑥夜間の地震発生により、訓練通りにはいかなかった

地震の規模等から自己判断して避難しなかったり、避難の判断に迷ったことを挙げる意見が多かった。

また、非常時持ち出し品の準備不足によりスムーズに避難できなかった、訓練によりある程度の手順は分かっているにもかかわらず実際に地震に遭遇すると混乱したという意見も見られた。

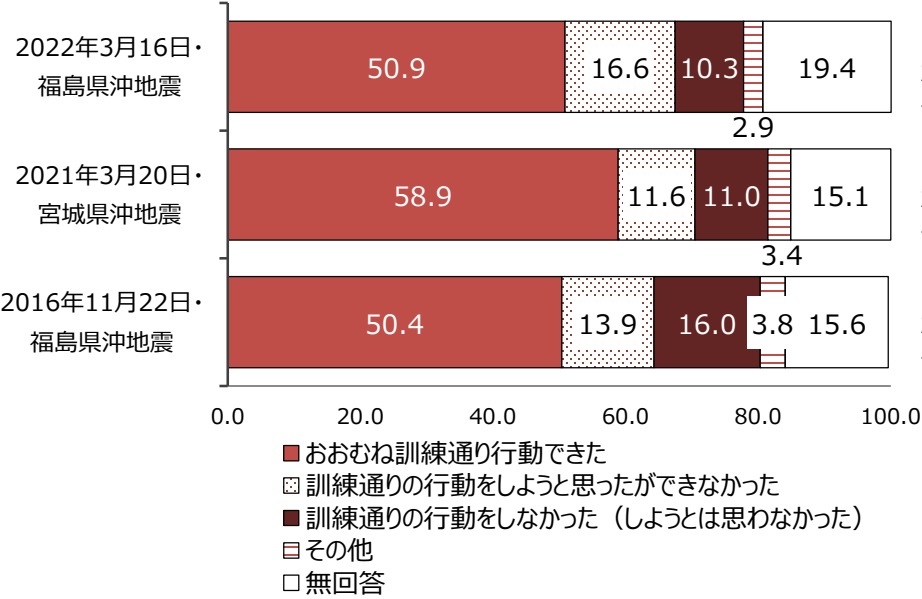
このほか、地震発生が夜間であったことも、昼間の訓練が活かされなかった点として挙げられている。

IV. 調査結果の分析

27. 総合防災訓練と同様の避難行動ができたか

■ 訓練と同様の避難行動ができたか否かについては、「おおむね訓練通り行動できた」が50.9%であった。
 ■ 過去の地震と比較すると、2022年地震では「おおむね訓練通り行動できた」が2021年地震から約8ポイント下降している。

総合防災訓練と同様の避難行動ができたか



n=175 (訓練の参加経験があり、今回避難をした人)
 単位：％
 n=146 (訓練の参加経験があり、今回避難をした人)
 単位：％
 n=238 (訓練の参加経験があり、前回避難をした人)
 単位：％

<居住地区別 (2022年地震)>

単位：件,％

	調査数	行動おできなかつた訓練通り	おおむね訓練通り行動できた	訓練通りの行動をしようと思ったができなかった	訓練通りの行動をしなかった (しようとは思わなかった)	その他	無回答
荒浜地区	58	23	10	9	2	14	
	100.0	39.7	17.2	15.5	3.4	24.1	
吉田東部地区	117	66	19	9	3	20	
	100.0	56.4	16.2	7.7	2.6	17.1	

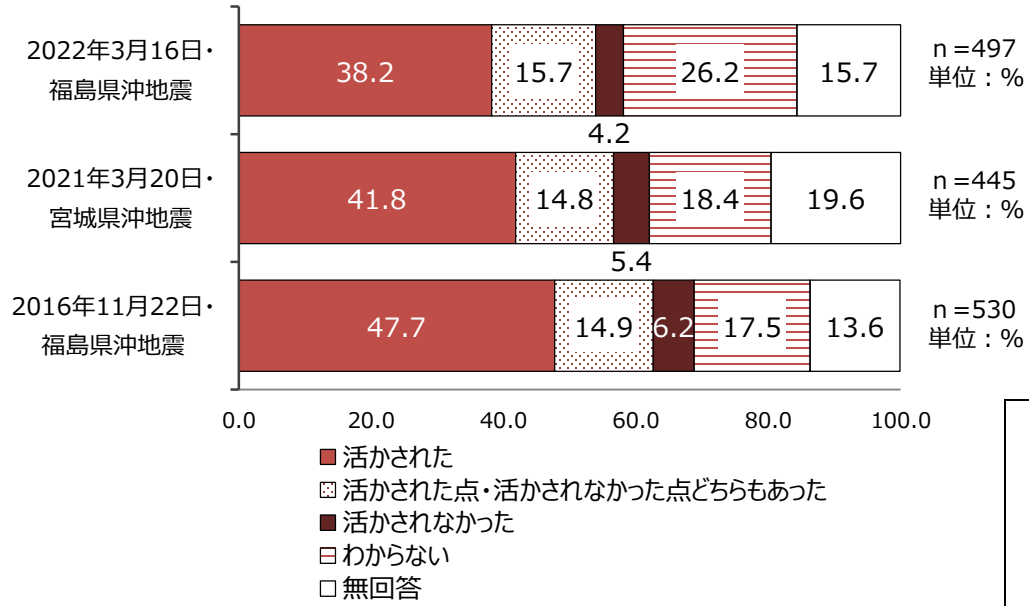
IV. 調査結果の分析

28. 東日本大震災での経験の活用

■ 今回の避難行動で、東日本大震災での経験が「活かされた」と考えた人は38.2%で、「活かされた点・活かされなかった点どちらもあった」(15.7%)を合わせると、53.9%が『活かされた点があった』と回答している。

■ 過去の地震と比較すると、東日本大震災から年月が経つほど、経験が「活かされた」と考えた人は減少しており、2022年地震では2016年地震から10ポイント程度下降している。

東日本大震災での経験が活かされたか



<居住地区別（2022年地震）>

単位：件,%

居住地区	調査数	活かされた	活かされた点・活かされなかった点どちらもあった	活かされなかった	わからない	無回答
荒浜地区	170	64	25	8	41	32
	100.0	37.6	14.7	4.7	24.1	18.8
吉田東部地区	327	126	53	13	89	46
	100.0	38.5	16.2	4.0	27.2	14.1

IV. 調査結果の分析

28. 東日本大震災での経験の活用

今回の地震による津波避難に、東日本大震災の経験が活かされたか、について具体的な意見も記載して頂いている。主な意見を要約すると、以下のような内容であった。

東日本大震災の経験が活かされた点・活かされなかった点

活かされた

多くの意見は、「東日本大震災」における過去の経験が強く意識されており、それが、

- ①常に危機意識につながっている
- ②比較判断の基準となる

といった考えに結びついている。

過去の経験が、危機意識と強く結びついている場合は、

- ①地震発生直後、又は津波注意報・避難指示の発表・発令後すぐに避難することができた
- ②防災の備えや非常時持ち出し品の準備ができていた
- ③大きな地震＝津波と考えて避難することができた
- ④必要な情報の収集に努めた

など避難行動に活かされたとの意見がみられた。

一方、判断上の基準としている場合は、

- ①東日本大震災での揺れの大きさと比較して、避難することを判断した
- ②東日本大震災よりも小さい（1 m程度の）津波予報では避難しなくても大丈夫だと思った

など、避難をする、または避難を要さないと判断することに役立ったとの意見がみられた。

活かされなかった

多くの意見は、左記の「活かされた点」の記述と同様に過去の経験が強く意識されており、その結果、避難を要さないと判断するに至ったことを反省する内容が目立ち、「東日本大震災」から年月が経ったことで、すぐに逃げなければいけないという意識の希薄化や、どうしても震災時の揺れと比較してしまうなど油断を招いてしまった、などの振り返りがみられた。また、「津波注意報」に対して避難を迷った、という意見もあった。

その他、

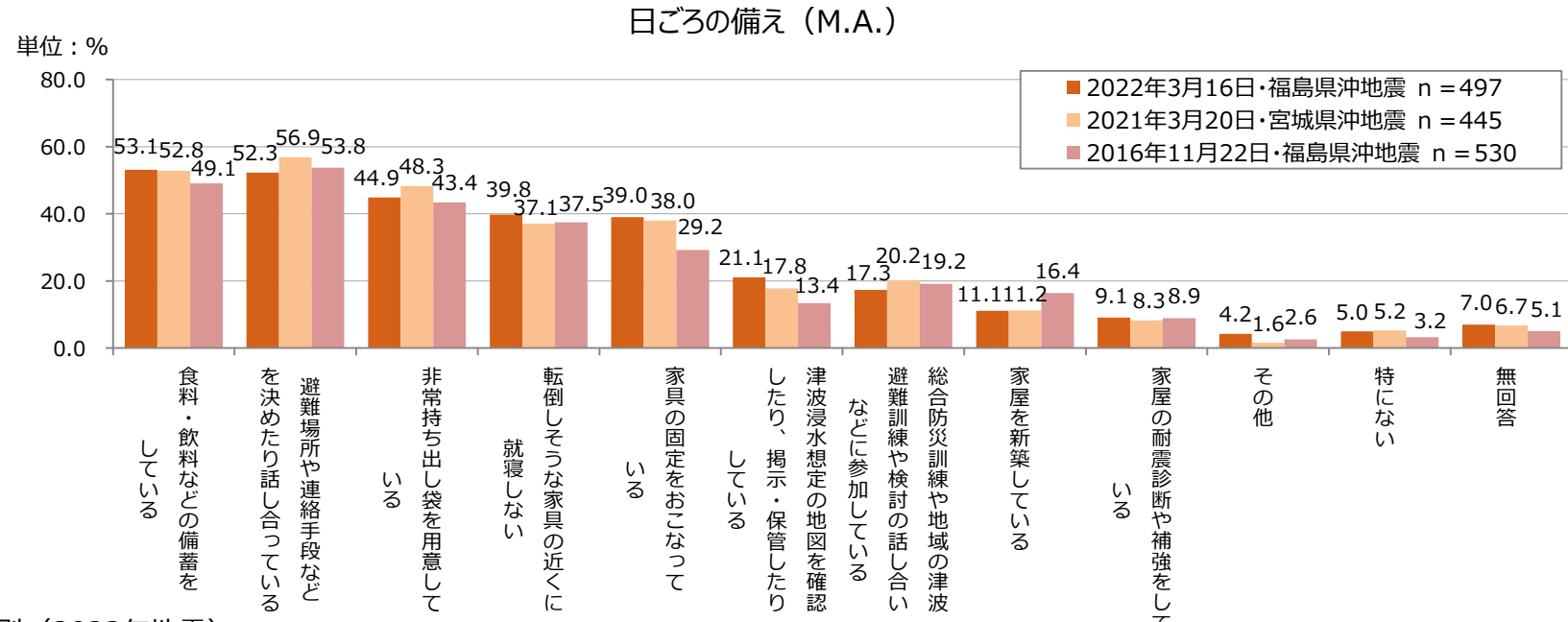
- ①大きな地震や津波予報により混乱した
- ②慌てて避難をしたことで、非常時持ち出し品を持ち忘れた
- ③予想よりも車の量が多く、渋滞に巻き込まれた
- ④避難指示が解除される前に避難を完了した

など、具体的な様子を記す意見がみられた。

IV. 調査結果の分析

29. 日ごろの備え

- 日ごろの地震や津波への備えについては、「食料・飲料などの備蓄をしている」が53.1%と最も多く、以下「避難場所や連絡手段などを決めたり話し合っている」（52.3%）、「非常持ち出し袋を用意している」（44.9%）や、「転倒しそうな家具の近くに就寝しない」（39.8%）、「家具の固定をおこなっている」（39.0%）などが多い。
- 過去の地震と比較すると、2022年調査では「家具の固定をおこなっている」が2016年地震から10ポイント程度、「津波浸水想定地図を確認したり、掲示・保管をしている」が約8ポイント上昇している。



<居住地区別 (2022年地震) >

居住地区	単位: 件, %												
	件数	食料・飲料などの備蓄	避難場所や連絡手段	非常持ち出し袋	家具の固定	津波浸水想定地図	避難訓練	家屋の新築	家屋の耐震	その他	特になし	無回答	
荒浜地区	170	80	86	79	57	64	17	23	20	12	11	15	13
	100.0	47.1	50.6	46.5	33.5	37.6	10.0	13.5	11.8	7.1	6.5	8.8	7.6
吉田東部地区	327	184	174	144	141	130	88	63	35	33	10	10	22
	100.0	56.3	53.2	44.0	43.1	39.8	26.9	19.3	10.7	10.1	3.1	3.1	6.7

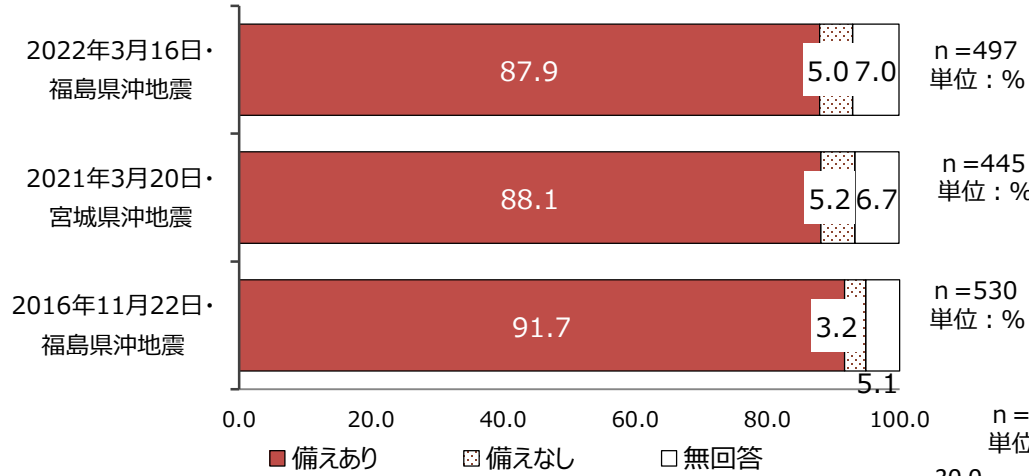
IV. 調査結果の分析

29. 日ごろの備え

■ 日ごろの備えに関する回答をその有無で整理し直すと、以下の図表のように、何らかの備えがあるとの回答は全体の87.9%で、過去の地震と同様の水準となっている。

■ 備えの項目（選択肢）の回答数を集計したところ、3項目が23.1%と最も多く、選択された備えの回答数は平均3.1項目であった。

日ごろの備えの有無

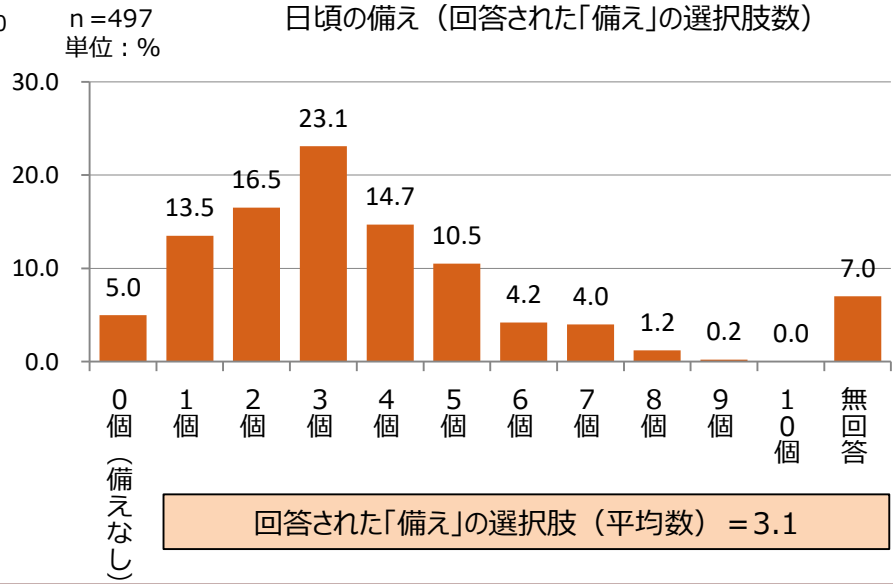


<居住地区別（2022年地震）>

単位: 件, %

	調査数	備えあり	備えなし	無回答
荒浜地区	170	142	15	13
	100.0	83.5	8.8	7.6
吉田東部地区	327	295	10	22
	100.0	90.2	3.1	6.7

日頃の備え（回答された「備え」の選択肢数）



1. 深夜帯であったものの、多くの人々が避難行動を行った。しかし、津波浸水想定エリア内のすべての住民が避難行動をしたわけではなく、強い揺れや避難指示での避難を習慣化すべきである。

今般の地震（2022年地震：23時台）で「避難した」人の割合は、前回の地震（2021年地震：18時台）に比べて10%以上高い。2022年地震では地震発生の時点で6割以上の人々が就寝中であったにもかかわらず、夕刻に地震が発生した2021年地震に比べて、避難開始のタイミングも早く、割合としても多くの人々が避難行動を行っている。このような傾向は、2021年地震の夜の地震発生という経験・反省を踏まえて行動した人が増加したことによるものと考えられる。しかし、2011年以降、避難指示が発生した地震における避難者の割合は、東日本大震災時の7割超を下回る結果になっている。浸水想定エリア内の住民には、沿岸部での地震発生や避難指示をきっかけにして、「練習避難」の機会にいただきたい。

2. 渋滞に遭遇した住民の割合は、東日本大震災の際と同程度であり、深夜帯に車を使用する避難訓練を実施する必要がある。

今般の地震（2022年地震：23時台）と2016年地震（5時台）で、避難し、かつ移動手段に車を使用した人数・割合は同程度である。それにも関わらず、渋滞に遭遇した人の割合は、前者（深夜）で27.8%、後者（早朝）で8.4%と大きな差が生じた。2016年地震は、地震発生は5時台で、その後8時台に津波注意報から津波警報へ切り替わり、2時間をかけて避難者が徐々に増えていった状態にあったことが、渋滞が発生しにくかった原因とも考えられる。今般の地震の渋滞遭遇率は、東日本大震災の際と同程度であり、深夜帯に同時に多くの車を利用する避難の難しさを示している。重要なことは、渋滞の発生の有無ではなく、「全員が津波到達前に浸水想定エリア外に到着できるか否か」という点にある。今回の渋滞発生状況が、そういう状況にあった否かについて、改めて深夜帯に避難訓練を行うことによって検証する必要がある。

3. 日常の備えをより一層強化していく必要がある。

日頃の備えのうち、食料・飲料の備蓄、家具の転倒防止などは2016年地震時点、2021年地震時点、2022年地震時点（今般）と実施割合が微増しているものの、4～5割程度の実施にとどまっている。大地震が発生した場合は、避難対応だけでなく、揺れそのものから命を守らなければならない。今般の地震は深夜帯で、多くの人々が就寝中のなかで発生していたことを踏まえれば、机等の下に身を隠すなどの行動はとっさにはできない状況は容易に想像される。これらの日頃の備えは、最低限の備えでもあり、すべての世帯で実施されるべきものである。町をあげて、世帯ごとの事前対策を進めていく必要がある。

VI. 調査票（見本）

※調査票の寸寸はA4版

《地区名》

3月16日の津波避難行動に関するアンケート調査

記入にあたってのお願い

- この調査は、10分～15分程度でご回答いただけます。
 - この調査は、令和4年6月1日（水）時点での住民基本台帳の中から、町内1,000世帯を統計的に抽出し、郵送の便上、世帯主の方を宛先としてお送りいたしました。回答者は世帯でおひとり、18歳以上の方であればどなたでも（宛名の世帯主の方以外でも）構いません。
 - 質問文を読み、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
 - は1つ、あてはまるもの全てに○、など回答数の指示があります。よく読んでお答えください。
 - その他の（ ）内や自由意見欄には、具体的に考えや意見を記入ください。
 - 回答は無記名でお願いします（住所や氏名のご記入は必要ありません）。
- 回答内容から個人が特定されることは絶対にありません。

令和4年3月16日の行動についておたずねします

《巨理町における注意報等の状況》	
午後11:36	地震発生
午後11:39	津波注意報発表
午後11:39	避難指示発令
翌日午前5:00	津波注意報解除
翌日午前5:00	避難指示解除

令和4年3月16日に発生した福島県沖地震では、津波注意報が発表され、巨理町においても避難指示が発令されました。
以下の設問は、福島県沖地震の際の、住民のみなさまの避難行動についてお伺いするものです。

問1 3月16日の夜間（午後11:36）に福島県沖の地震が発生した際、あなたは何をしていましたか。（○は1つ）

1. 自宅で寝ていた
2. 自宅で起きていた
3. 自宅外にいた（東日本大震災で津波浸水した場所または海上）
4. 自宅外にいた（東日本大震災で津波浸水しなかった場所）

問2 この地震の最中（揺れている間）、とっさに何をしましたか。（あてはまるもの全てに○）

1. テレビやラジオで地震情報を知ろうとした
2. 火の始末をした
3. 家具や壊れ物を押さえたりした
4. 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした
5. 丈夫なものにつかまって、身を支えた
6. その場で様子をみた
7. 家族や周りの人に声をかけた
8. 子どもや高齢者、病人などを保護した
9. 戸や窓を開けた
10. 家や建物の外に飛び出した
11. 建物の中に飛び込んだ
12. 車・オートバイ・じてんしゃを停止させた
13. その他（ ）
14. 何もできなかった（何もしなかった）
15. 無我夢中でおぼえていない

- 1 -

3月16日に発表された「津波注意報」（午後11:39）についてお伺いします。

問3-1 あなたは、津波注意報（午後11:39に発表）を見聞きましたか。（○は1つ）

1. した
2. しなかった →次ページ問4-1へ

問3-2 どのような手段でその情報を見聞きましたか。（あてはまるもの全てに○）

1. 防災行政無線（サイレン）から
2. テレビから
3. ラジオから
4. エリアメールから
5. SNS（ツイッター・フェイスブックなど）から
6. インターネット・防災アプリから
7. 巨理町ほっとメール便から
8. 近所の人・友人・親せきなどから
9. 町内会・防災会から
10. その他（ ）

問3-3 津波注意報を聞いたとき、どれくらいの津波が来ると思いましたか。（○は1つ）

1. 東日本大震災と同じくらい
2. 東日本大震災よりも小さい
3. 津波は来ないと思った

問3-4 津波注意報を聞いたとき、どの程度身の危険を感じましたか。（○は1つ）

1. 非常に身の危険を感じた
2. やや身の危険を感じた
3. どちらともいえない
4. あまり身の危険を感じなかった
5. 全く身の危険を感じなかった

- 2 -

VI. 調査票（見本）

3月16日に亶理町から発令された「避難指示」（午後11:39）についてお伺いします。

【全ての方にお伺いします】

問4-1 あなたは、亶理町からの避難指示を見聞きましたか。（〇は1つ）

1. した 2. しなかった ⇒問5へ

問4-2 どのような手段でその情報を見聞きましたか。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 防災行政無線（サイレン）から | 6. インターネット・防災アプリから |
| 2. テレビから | 7. 亶理町ほっとメール便から |
| 3. ラジオから | 8. 近所の人・友人・親せきなどから |
| 4. エリアメールから | 9. 町内会・防災会から |
| 5. SNS（ツイッター・フェイスブックなど）から | 10. その他（ ） |

問4-3 避難指示を聞いたとき、どれくらいの津波が来ると思いましたか。（〇は1つ）

1. 東日本大震災と同じくらい 2. 東日本大震災よりも小さい 3. 津波は来ないと思った

【全ての方にお伺いします】

問5 あなたは、3月16日の地震で、避難をしましたか。（〇は1つ）

1. 避難をした（自宅2階以上へ含む） ⇒次ページ問5-3へ 2. 避難しなかった

【避難しなかった方（問5で「2」と回答した方）のみ】

問5-1 避難することを考えましたか。（〇は1つ）

1. 考えた 2. 考えなかった

問5-2 避難をしなかった理由は何ですか。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 身体的に避難するのが困難だったから | 7. 家族に避難するのが困難な人がいたから |
| 2. 家族がそろっていなかったから | 8. どこに避難して良いかわからなかったから |
| 3. 家財や仕事道具が心配だったから | 9. 大きな津波は来ないと思ったから |
| 4. 面倒だったから | 10. 近所の人たちが避難していなかったから |
| 5. 避難場所まで遠いから | 11. テレビ・ラジオ等での情報収集を優先したから |
| 6. 仕事に行く（職場に留まる）ことを優先したから | 12. その他（ ） |

⇒「避難しなかった」は9ページの間8へお進みください（問5-3～問7-1は回答不要です）

【避難をした方（問5で「1. 避難をした」と回答した方）のみ】

問5-3 避難する判断基準を事前に家族や地域で決めていましたか。（〇は1つ）

1. 決めていた 2. 決めていない

問5-4 上記、問5-3で「1. 決めていた」と回答した人はその判断基準を、「2. 決めていない」と回答した人は今回避難したきっかけを教えてください。（〇は1つ）

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 大きな揺れを感じたら（感じたから） | 4. 津波警報が発表されたら |
| 2. 津波注意報が発表されたら（発表されたから） | 5. 近所の人が避難したら（避難していたから） |
| 3. 避難指示が発令されたら（発令されたから） | 6. その他（ ） |

問6 避難の開始時刻・完了時刻・場所・手段などを教えてください。

(1) 避難を開始した時刻と、避難が完了した時刻を教えてください。

避難開始時刻(移動を開始した時刻)	午前 _____ 時 _____ 分 頃 午後 _____ 時 _____ 分 頃
避難完了時刻(避難先への移動が完了した時刻)	午前 _____ 時 _____ 分 頃 午後 _____ 時 _____ 分 頃

(2) 避難した際の持ち出し品を教えてください。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 現金 | 9. ヘルメット・防災ずきん |
| 2. 預金通帳・財布等の貴重品 | 10. アルバムなど思い出の品 |
| 3. 保険証 | 11. 位牌 |
| 4. 食料・飲料水 | 12. 仕事の書類 |
| 5. 薬 | 13. ノートパソコン |
| 6. 洋服 | 14. その他（ ） |
| 7. 携帯電話・スマートフォン | 15. 何も持っていかなかった |
| 8. 懐中電灯・電池 | |

(3) 避難先はどちらになりますか。（〇は1つ）

1. 町指定の避難場所（具体的に： _____）
2. 自宅の2階以上 _____
3. 自宅以外の自分・家族・地域で決めた避難先（具体的に： _____）
4. その他（具体的に： _____）

【問6（3）で「1. 町指定の避難場所」と回答した方のみ】

(4) 避難の際にはその建物に入りましたか、入りませんでしたか。（〇は1つ）

1. 体育館など建物の中に入った
2. 体育館など建物の中には入らず、車中などにいた（感染拡大防止のため）
3. 体育館など建物の中には入らず、車中などにいた（感染拡大防止とは関係なく）

⇒次ページ問6（6）へ

VI. 調査票（見本）

問7 避難を終了した（避難した場所から自宅に戻るなど普通の生活に戻った）時刻とその判断のきっかけを教えてください。

(1) 時刻

避難を終了した時刻	午前 午後 _____ 時 _____ 分 頃
-----------	----------------------------

(2) 避難を終了した一番のきっかけ（〇は1つ）

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 津波注意報が解除されたから | 4. 早く仕事に行きたかった（職場に戻りたかった）から |
| 2. 避難指示が解除されたから | 5. もう津波は来ないと思ったから |
| 3. 安全な高台から海の状態を確認したから | 6. その他（ _____ ） |

【問7(2)で「1」と「2」と回答した方のみ】

問7-1 その情報を何で知りましたか。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 防災行政無線（サイレン）から | 6. インターネット・防災アプリから |
| 2. テレビから | 7. 巨理町ほっとメール便から |
| 3. ラジオから | 8. 近所の人・友人・親せきなどから |
| 4. エリアメールから | 9. 町内会・防災会から |
| 5. SNS（ツイッター・フェイスブックなど）から | 10. その他（ _____ ） |

東日本大震災（平成23年3月11日）の行動についておたずねします

《巨理町における状況》

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、地震発生直後に津波警報が発表され、のちに津波予想高が6mから10m以上に切り替わりました。巨理町においても、その段階で避難指示が発令されました。以下の設問は、東日本大震災発生当時の避難行動についてお伺いするものです。

午後2：46	地震発生
午後2：49	津波警報（6m）
午後3：14	津波警報（10m以上）
午後3：15	避難指示

問8 3月11日の午後2：46に地震が発生した際、あなたはどこに住んでいましたか。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 巨理町内（津波浸水区域内） | 3. 巨理町外 ⇒ 14ページ問16へ |
| 2. 巨理町内（津波浸水区域外） | |

問9 3月11日の午後2：46に地震が発生した際、あなたはどこにいましたか。（〇は1つ）

- | | |
|---------|----------------|
| 1. 巨理町内 | 2. 巨理町外 ⇒ 問10へ |
|---------|----------------|

問9-1 この地震が発生した際、あなたは何をしていましたか。（〇は1つ）

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| 1. 自宅内にいた | 2. 自宅外にいた（東日本大震災で津波浸水した場所または海上） |
| | 3. 自宅外にいた（東日本大震災で津波浸水しなかった場所） |

【3月11日の地震発生時に、巨理町内に住んでいた全ての方にお伺いします】

問10 この地震の最中（揺れている間）、とっさに何をしましたか。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. テレビやラジオで地震情報を知ろうとした | 9. 戸や窓を開けた |
| 2. 火の始末をした | 10. 家や建物の外に飛び出した |
| 3. 家具や壊れ物を押さえたりした | 11. 建物の中に飛び込んだ |
| 4. 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした | 12. 車・オートバイ・じてんしゃを停止させた |
| 5. 丈夫なものにつかまって、身を支えた | 13. その他（ _____ ） |
| 6. その場で様子をみた | 14. 何もできなかった（何もしなかった） |
| 7. 家族や周りの人に声をかけた | 15. 無我夢中でおぼえていない |
| 8. 子どもや高齢者、病人などを保護した | |

VI. 調査票（見本）

3月11日に発表された最初の「津波警報（6m）」（午後2：49）についてお伺いします。

問11-1 あなたは、最初の津波警報（6m）（午後2：49に発表）を見聞きしましたか。（〇は1つ）

- | | | |
|-------|----------|---------|
| 1. した | 2. しなかった | ⇒問12-1へ |
|-------|----------|---------|

問11-2 どのような手段でその情報を見聞きしましたか。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 防災行政無線（サイレン）から | 5. インターネット・防災アプリから |
| 2. テレビから | 6. 近所の人・友人・親せきなどから |
| 3. ラジオから | 7. 町内会・防災会から |
| 4. SNS（ツイッター・フェイスブックなど）から | 8. その他（ ） |

問11-3 最初の津波警報を聞いたとき、どの程度身の危険を感じましたか。（〇は1つ）

- | | | |
|----------------|-------------------|------------------|
| 1. 非常に身の危険を感じた | 3. どちらともいえない | 5. 全く身の危険を感じなかった |
| 2. やや身の危険を感じた | 4. あまり身の危険を感じなかった | |

3月11日に津波予想高が切り替わった「津波警報（10m以上）」（午後3：14）についてお伺いします。

【3月11日の地震発生時に、亶理町内に住んでいた全ての方にお伺いします】

問12-1 あなたは、津波予想高が切り替わった津波警報（10m以上）（午後3：14に発表）を見聞きしましたか。（〇は1つ）

- | | | |
|-------|----------|-------------|
| 1. した | 2. しなかった | ⇒次ページ問13-1へ |
|-------|----------|-------------|

問12-2 どのような手段でその情報を見聞きしましたか。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 防災行政無線（サイレン）から | 5. インターネット・防災アプリから |
| 2. テレビから | 6. 近所の人・友人・親せきなどから |
| 3. ラジオから | 7. 町内会・防災会から |
| 4. SNS（ツイッター・フェイスブックなど）から | 8. その他（ ） |

問12-3 津波予想高が切り替わった津波警報を聞いたとき、どの程度身の危険を感じましたか。（〇は1つ）

- | | | |
|----------------|-------------------|------------------|
| 1. 非常に身の危険を感じた | 3. どちらともいえない | 5. 全く身の危険を感じなかった |
| 2. やや身の危険を感じた | 4. あまり身の危険を感じなかった | |

3月11日に亶理町から発令された「避難指示」（午後3：15）についてお伺いします。

【3月11日の地震発生時に、亶理町内に住んでいた全ての方にお伺いします】

問13-1 あなたは、亶理町からの避難指示を見聞きしましたか。（〇は1つ）

- | | | |
|-------|----------|-------|
| 1. した | 2. しなかった | ⇒問14へ |
|-------|----------|-------|

問13-2 どのような手段でその情報を見聞きしましたか。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 防災行政無線（サイレン）から | 5. インターネット・防災アプリから |
| 2. テレビから | 6. 近所の人・友人・親せきなどから |
| 3. ラジオから | 7. 町内会・防災会から |
| 4. SNS（ツイッター・フェイスブックなど）から | 8. その他（ ） |

【3月11日の地震発生時に、亶理町内に住んでいた全ての方にお伺いします】

問14 あなたは、3月11日の地震の後、津波から命を守るための避難をしましたか。（〇は1つ）

- | | | |
|----------------------|-------------|------------|
| 1. 避難をした（自宅2階以上へも含む） | ⇒次ページ問14-3へ | 2. 避難しなかった |
|----------------------|-------------|------------|

【避難しなかった方（問14で「2」と回答した方）のみ】

問14-1 避難することを考えましたか。（〇は1つ）

- | | |
|--------|-----------|
| 1. 考えた | 2. 考えなかった |
|--------|-----------|

問14-2 避難をしなかった理由は何か。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 身体的に避難するのが困難だったから | 7. 家族に避難するのが困難な人がいたから |
| 2. 家族がそろっていなかったから | 8. どこに避難して良いかわからなかったから |
| 3. 家財や仕事道具が心配だったから | 9. 大きな津波は来ないと思ったから |
| 4. 面倒だったから | 10. 近所の人たちが避難していなかったから |
| 5. 避難場所まで遠いから | 11. テレビ・ラジオ等での情報収集を優先したから |
| 6. 仕事に行く（職場に留まる）ことを優先したから | 12. その他（ ） |

⇒「避難しなかった方」は14ページの問16へお進みください（問14-3～問15-2は回答不要です）

【避難をした方（問14で「1. 避難をした」と回答した方）のみ】

問14-3 避難する判断基準を事前に家族や地域で決めていましたか。（〇は1つ）

1. 決めていた 2. 決めていない

問14-4 上記、問14-3で「1. 決めていた」と回答した人はその判断基準を、「2. 決めていない」と回答した人は今回避難したきっかけを教えてください。（〇は1つ）

1. 大きな揺れを感じたら（感じたから） 4. 津波警報が発表されたら（発表されたから）
 2. 津波注意報が発表されたら 5. 近所の人や避難したら（避難していたから）
 3. 避難指示が発令されたら（発令されたから） 6. その他（ ）

問15 津波から命を守るための避難の開始時刻・完了時刻・場所・手段などを教えてください。

(1) 避難を開始した時刻と、避難が完了した時刻を教えてください。

避難開始時刻 (移動を開始した時刻)	3月_____日	午前 午後	_____時_____分 頃
避難完了時刻 (避難先への移動が完了した時刻)	3月_____日	午前 午後	_____時_____分 頃

(2) 避難した際の持ち出し品を教えてください。（あてはまるもの全てに〇）

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1. 現金 | 9. ヘルメット・防災ずきん |
| 2. 預金通帳・財布等の貴重品 | 10. アルバムなど思い出の品 |
| 3. 保険証 | 11. 位牌 |
| 4. 食料・飲料水 | 12. 仕事の書類 |
| 5. 薬 | 13. ノートパソコン |
| 6. 洋服 | 14. その他（ ） |
| 7. 携帯電話・スマートフォン | 15. 何も持っていかなかった |
| 8. 懐中電灯・電池 | |

(3) 避難先はどちらになりますか。（〇は1つ）

1. 町指定の避難場所（具体的に： ）
 2. 自宅の2階以上)
 3. 自宅以外の自分・家族・地域で決めた避難先（具体的に：)
 4. その他（具体的に：)

⇒「2. 自宅の2階以上」を選んだ方は14ページの問16へお進みください
 （問15（4）～問15-2は回答不要です）

【問15（3）で「1. 町指定の避難場所」と回答した方のみ】

(4) 避難の際にはその建物に入りましたか、入りませんでしたか。（〇は1つ）

1. 体育館など建物の中に入った
 2. 体育館など建物の中には入らず、車中などにいた

【自宅以外に避難した方（問15（3）で「2. 自宅の2階以上」以外と回答した方）のみ】

(5) 避難手段は何でしたか。（〇は1つ）

1. 車 2. 徒歩 3. じてんしゃ 4. バイク・原付



→ 次ページ問16へ

【車で避難した方（問15（5）で「1. 車」と回答した方）のみ】

問15-1 車で避難しようと思った理由を教えてください。

（あてはまるもの全てに〇、うち、最もあてはまるものに◎）

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1. 普段から車で避難することを訓練・計画しているため | 7. たまたま車に乗っていたから |
| 2. 車が大切な財産だから（車を失いたくない） | 8. 普段、車を使って行動しているから |
| 3. 家族・親類・近隣住民を避難させるため | 9. これまで車で避難しても大丈夫だったから |
| 4. 安全な場所まで遠く、車で避難しないと間に合わないから | 10. 雲さをしのぐため |
| 5. カーラジオ・テレビから情報を得るため | 11. その他（ ） |
| 6. 職場から指示されたから | |

問15-2 車で避難しているときに、渋滞に遭遇しましたか。（〇は1つ）

1. はい 2. いいえ

VI. 調査票（見本）

町の総合防災訓練への参加についておたずねします

【全ての方にお伺いします】

問16 東日本大震災以降、町主催の総合防災訓練に参加したのはいつですか。
(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 平成25年度（2013年） | 5. 平成29年度（2017年） |
| 2. 平成26年度（2014年） | 6. 平成30年度（2018年） |
| 3. 平成27年度（2015年） | 7. 平成31年度（2019年） |
| 4. 平成28年度（2016年） | 8. 一度も参加したことがない⇒ |

次ページ
問19へ

【総合防災訓練の参加経験のある方（問16で「1」～「7」と回答した方）のみ】

問17 令和4年3月16日の地震津波では、総合防災訓練での経験は活かされましたか。
また、経験が活かされた・活かされなかったと思う点について具体的に記入ください。

(1) 経験は活かされましたか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 活かされた | 3. 活かされなかった |
| 2. 活かされた点・活かされなかった点どちらもあった | 4. わからない ⇒問18へ |

(2) 活かされた点・活かされなかった点を具体的に記入ください。

経験が活かされた点	経験が活かされなかった点

【令和4年3月16日の地震で避難した方で、総合防災訓練の参加経験のある方（問16で「1」～「7」と回答し、かつ問5で「1」と回答した方）のみ】

問18 総合防災訓練のときと同様の避難行動をすることができましたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. おおむね訓練通り行動できた |) |
| 2. 訓練通りの行動をしようと思ったができなかった | |
| 3. 訓練通りの行動をしなかった(しようとは思わなかった) | |
| 4. その他(具体的に：) | |

過去の災害時の経験や日頃の備えなどについておたずねします

【全ての方にお伺いします】

問19 令和4年3月16日の地震津波では、東日本大震災での経験は活かされましたか。
また、経験が活かされた・活かされなかったと思う点について具体的に記入ください。

(1) 経験は活かされましたか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 活かされた | 3. 活かされなかった |
| 2. 活かされた点・活かされなかった点どちらもあった | 4. わからない ⇒問20へ |

(2) 活かされた点・活かされなかった点を具体的に記入ください。

経験が活かされた点	経験が活かされなかった点

【全ての方にお伺いします】

問20 お宅では、日ごろ地震や津波に対してどのような備えをしていますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 避難場所や連絡手段などを決めたり話し合っている
2. 家具の固定をおこなっている
3. 転倒しそうな家具の近くに就寝しない
4. 家屋の耐震診断や補強をしている
5. 家屋を新築している
6. 非常持ち出し袋を用意している
7. 食料・飲料などの備蓄をしている
8. 津波浸水想定地図を確認したり、掲示・保管したりしている
9. 総合防災訓練や地域の津波避難訓練や検討の話し合いなどに参加している
10. その他 ()
11. 特にない

問21 東日本大震災以降に、お住まいの地域の中で行った防災の取り組みがありましたら、ご記入ください。

(例：避難計画ができた、要配慮者名簿ができた)

VI. 調査票 (見本)

最後に、あなたご自身のことについておたずねします (統計的な分析に必要な項目です)

F 1 性別

1. 男性	2. 女性
-------	-------

F 2 年齢

1. 18~19歳	4. 40歳代	7. 70歳以上
2. 20歳代	5. 50歳代	
3. 30歳代	6. 60歳代	

F 3 お住まいの行政区

行政区

F 4 ご自身を含めてご家族の中に、次のような方がいらっしゃいますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 65歳以上で介護が必要な方	4. 傷病者(けがや病気のある方)
2. 乳幼児	5. 妊婦
3. 障がいをお持ちの方	6. 外国人

F 5 あなたのご職業、勤務・就学場所を教えてください。

(1) ご職業 (○は1つ)

1. 会社員・公務員など	5. 学生
2. 漁業者	6. 主婦
3. 自営業者	7. 無職
4. パート・アルバイト	8. その他()

→ F 6へ

【F 5 (1) で「1」～「5」、「8」と回答した方のみ】

(2) 勤務・就学場所 (○は1つ)

1. 巨理町内(東日本大震災の浸水域外)	3. 巨理町外(東日本大震災の浸水域外)
2. 巨理町内(東日本大震災の浸水域)	4. 巨理町外(東日本大震災の浸水域)

F 6 東日本大震災の際にはご自宅はどのようなり災判定を受けましたか。(○は1つ)

1. 全壊	4. 一部損壊
2. 大規模半壊	5. 被害無し・判定を受けていない
3. 半壊	6. その他()

ご協力ありがとうございました。調査はこれで終了です。

ご記入済みの調査票は、記入もれがないか確認の上、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて
令和4年9月16日(金)までに投函していただきますよう、お願い申し上げます。
お忙しいところ調査にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

発行 2022年11月

- 本調査は、東北大学災害科学国際研究所、巨理町、株式会社サーベイリサーチセンターによる共同調査研究です。
- 引用、転載にあたっては、同3者の名称と、その共同調査研究であることの出所を明記して使用してください。
- ご不明な点など、問い合わせについては、お手数ですが下記までご連絡ください。

東北大学災害科学国際研究所

- 組織名 東北大学災害科学国際研究所
- 所在地 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468番1号
- 担当部門 防災実践推進部門（佐藤 翔輔）
- 連絡先 TEL 022-752-2140
- E-mail ssato@irides.tohoku.ac.jp

巨理町役場

- 組織名 巨理町役場
- 所在地 宮城県巨理郡巨理町字悠里1番地
- 担当部門 総務課 安全推進班（遠藤 匡範）
- 連絡先 TEL 0223-34-1111（代表）

株式会社サーベイリサーチセンター

- 組織名 株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所
- 所在地 宮城県仙台市青葉区一番町2-4-1 読売仙台一番町ビル12階
- 担当部門 企画課（皆川 満洋）
- 連絡先 TEL 022-225-3871（代表）
- E-mail mina_m@surece.co.jp